

雲仙温泉地区 雲仙をもっと好きになるSTORY

雲仙温泉らしさ—雲仙温泉ならではの価値—をお客様と共有するために

Unzen onsen Interpretation Plan

雲仙温泉地区インタープリテーション全体計画



一般社団法人雲仙観光局

Version 16

雲仙温泉地区 雲仙をもっと好きになるSTORY

雲仙温泉らしさ—雲仙温泉ならではの価値—をお客様と共有するために

Unzen onsen Interpretation Plan

雲仙温泉地区インタープリテーション全体計画

目次

contents

■前書き	3
■インタプリテーションとは	4
■雲仙温泉地区におけるインタプリテーションの目的	5
■インタプリテーション全体計画を活用してこんな風になって欲しい	6
■インタプリテーション上、重要な資源	8
■来訪者に望まれる体験（来訪者にこのような利用をして欲しい）	10
■お客様と共有したい雲仙温泉ならではの価値	12
雲仙ならではの価値1：火山と人々の暮らし	13
1-1 世界で一番新しい山「平成新山」がある	14
1-2 動き続ける雲仙地獄が、地球の躍動・鼓動を伝えてくれる	16
1-3 雲仙の植生は火山活動と密接に関係している	18
1-4 雲仙地獄や三つの異なる泉質をもつ温泉はマグマからの贈り物である	20
1-5 雲仙温泉街は火山や地獄と共生している	22
1-6 火山と人が生み出して来た豊かな農耕風景がある	24
1-7 火山で出来た半島だからこそその気候・風景・自然現象が見られる	26
雲仙ならではの価値2：外国人避暑地としての歴史	29
2-1 世界に開かれた雲仙を今も感じ取れる	30
2-2 自然を活かした優雅な長期滞在が「ハイカラ文化」を生み、今尚、その片鱗を見ることができる	32
雲仙ならではの価値3：雲仙温泉と信仰	35
3-1 雲仙温泉のはじまりは、九州の守り神、山岳信仰・修験の山であった	36
3-2 「地獄」はキリシタン殉教の舞台になった	38
3-3 今もなお、山に向かって手を合わせる暮らしがある	40
雲仙ならではの価値4：自然の恵みと心身の健康（ウェルネス）	43
4-1 火山と人が育てて来た豊かな食材がある	44
4-2 温泉が生み出した独特の食やお土産がある	46
4-3 滋味豊かなこだわり野菜と料理人のコラボレーションが味わえる	48
4-4 二つの異なる海（橘湾と有明海）からの多様な海の幸が味わえる	50
4-5 観光と暮らしが近く、共同浴場など、地元住民と触れ合える機会が多い	52
■Q & A	54
■来訪者層の想定（現状及び今後期待される来訪者）	57
■雲仙地域における既存の代表的なインタプリテーション・メディア、プログラム	63

前書き

introduction

本書は、雲仙温泉でお客様をお迎えする“すべての関係者の皆様”に向けて、お客様にお伝えしたい、感じていただきたいと願っている雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの魅力・価値）を整理したものです。“すべての関係者の皆様”とは、宿泊施設や飲食店やお土産物店、ガイドや観光案内所、ビジターセンター、交通機関や様々な観光施設などで働く、すべてのスタッフの皆様、並びに、住民の皆様、また、そうした地域の皆様をバックアップし、地域全体の観光マネジメントやプロデュース、情報発信等を行う、行政や観光局のスタッフの皆様など、あらゆる場面で、直接的や間接的に、お客様と関わるすべての方々です。

雲仙温泉では、お客様に関わるすべての関係者の皆様と、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの魅力・価値）と、それをどのようにお客様にお伝えするかを学び、その上で、それぞれが考え、実践いただくことで、雲仙温泉全体の『おもてなし』のレベルアップを図りたいと考えています。ここでいう『おもてなし』とは、心のこもった接客のことだけでなく、お客様に、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間に触れていただき、雲仙温泉ならではの体験をして、ならではの感動を持ち帰っていただくお手伝いを、お客様に関わる一人一人が、その人らしく、させていただくことが『最高のおもてなし（超おもてなし）』だと考えています。そうしたことを実現していく一助になれば……との思いから、「雲仙温泉地区インタープリテーション全体計画」を作成いたしました。また、行政や観光局にとっては、ハード・ソフトの計画の一助になることも念頭に置いています。

なお、インタープリテーション全体計画の作成は、多くの雲仙温泉の観光事業者や住民の皆様の参加によって進められました。この計画によって、他の地域には無い「雲仙温泉ならではの魅力的なストーリー」を明確化し、「地域のブランディングやコンテンツ」を強化し、雲仙温泉の観光的な価値を高め、サービス向上に資するとともに、自然環境と歴史文化の保全と継承をより効果的・効率的に行うことをねらいとしています。対象期間は2022年9月から2025年9月までの3年間とします。

また、本計画は、初の取り組みであり、整理の仕方をはじめ、まだまだ情報に過不足があるところや、場合によっては認識違いがあるところもあるかもしれません。本計画自体もレベルアップさせていきたいと考えておりますので、お気づきの点等がある場合は、是非、雲仙観光局（0957-73-3639）までご一報いただければ、次回の改定の際等に修正等させていただきたいと思っております。



インタープリテーションとは

what is interpretation

「インタープリテーション」は、国立公園や世界遺産、観光地などにおいて、地域の魅力や価値を、来訪者と共有するためのコミュニケーションです。自然環境や風景、文化財などが持つ固有の価値やストーリーを来訪者と共有し、来訪者と地域資源との間に特別なつながりをつくれます。

楽しい体験の促しや、魅力的なストーリーを通じて「その場所らしさ (Sense of Place)」を伝えるのが基本的なアプローチです。ガイドや体験プログラムにはじまり、お客様との何気ない会話やちょっとしたご案内の中、また、Web サイトや展示や印刷物、時には、料理やお土産、場のしつらえなど、さまざまな場面や方法で、一貫したストーリーを伝えることが大切です。

そのために作られるのがインタープリテーション全体計画です。国立公園や世界遺産はもちろん、ミュージアムや観光地、観光施設などにおいてもインタープリテーション全体計画が作られるようになって来ています。



雲仙温泉地区における インタープリテーションの目的

interpretive goals

美しい自然景観や気持ちのよい温泉は、だれもが楽しめるものですが、それらの背後にあるストーリーは見ただけでは知ることはできません。

雲仙岳の勇壮な風景や、雲仙温泉のどこか懐かしい和風と洋風の町並み、そして、山麓や周辺の海からもたらされる豊かで多様な食、また、それらを育む人々の暮らしは、ダイナミックな地球の営みや、過去から現在まで続く歴史的な意味や価値を持っています。それらを来訪者と共有することで、より楽しんでもらい、雲仙温泉との結びつきを深めてもらうことが、インタープリテーションの第一義的な目的です。さらには、来訪を通じて自然の大切さや、社会の持続可能性を考える機会を提供していきます。

そのため、雲仙温泉の強みである①自然（温泉）、②食、③歴史・文化を中心に、人（暮らし）や神秘的な要素を加味したインタープリテーションを実施し、資源と来訪者を結びつけることで観光の活性化を図ります。



インタープリテーション全体計画を 活用してこんな風になって欲しい

objectives

例えば、インタープリテーション全体計画を活用することで、雲仙温泉関係者の皆さまにはこんな風になってほしいと考えています。

直接お客様と接する方

お客様からのご質問への回答や、何気ない会話の中で、お客様に雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）やその体験の仕方をお伝えし、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくお手伝いをいただけるようになって欲しいと考えています。

飲食店や料理人の方

料理やしつらえを通じて、お客様に、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）をお伝えし、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくお手伝いをいただけるようになって欲しいと考えています。

お土産物店の方

お土産やそのパッケージなどを通じて、お客様に、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）を持ち帰っていただき、家族や友人などにも、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動のお裾分けができるようになって欲しいと考えています。

ガイド・インタープリターの方

ガイドツアーや体験プログラムなどを通じて、お客様に、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）をお伝えし、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただく、一番の担い手になっていただくとともに、そうしたことを伝える資源の大切さもお客様にお伝えすることで、保全や継承の一翼も担って欲しいと考えています。

各種事業のディレクターや事業者・オーナーの方

各事業を通じて、お客様に、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）やその体験の仕方をお伝えすることで、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくことの一翼を担っていただくとともに、そうしたことを伝える資源の保全や継承にも責任を持って取り組む地域社会の一翼を担って欲しいと考えています。

行政・観光局をはじめ、各事業のプロデューサーの方

ハード・ソフトにかかわらず、地域全体の方向性を検討する際に、各事業者やお客様に関わるすべての関係者が、お客様に、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）やその体験の仕方をお伝えしやすくなるように、また、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくことの一翼を担っていただきやすくなるように、地域社会全体の持続可能性を踏まえたマネジメントや関係性構築の役割を担ってなって欲しいと考えています。また、そうしたことを伝えられる資源の保全や継承にも責任を持って取り組む地域社会を率先して創っていく役割を担って欲しいと考えています。

自分らしさ、自分の事業らしさ（売り・得意なこと）を生かして…

地域の魅力・価値を整理した「インタープリテーション全体計画」は、もちろん大切ですが、そこに地域関係者それぞれの「自分らしさ」や、「事業者らしさ（売り・得意なこと）」を、かけ算して表現いただくことで、より、地域の魅力・価値が、立体的に表現されることにつながり、あたかもひとつの楽譜（＝インタープリテーション全体計画）を、様々な楽器（＝個人、個々の事業者）で奏でるオーケストラのように、地域の魅力・価値を、地域関係者で、立体的に奏でられる地域になれる可能性があり、ゆえに、個々の魅力も同時に磨いていくことも大切だと考えています。



インタープリテーション上、 重要な資源

important resource

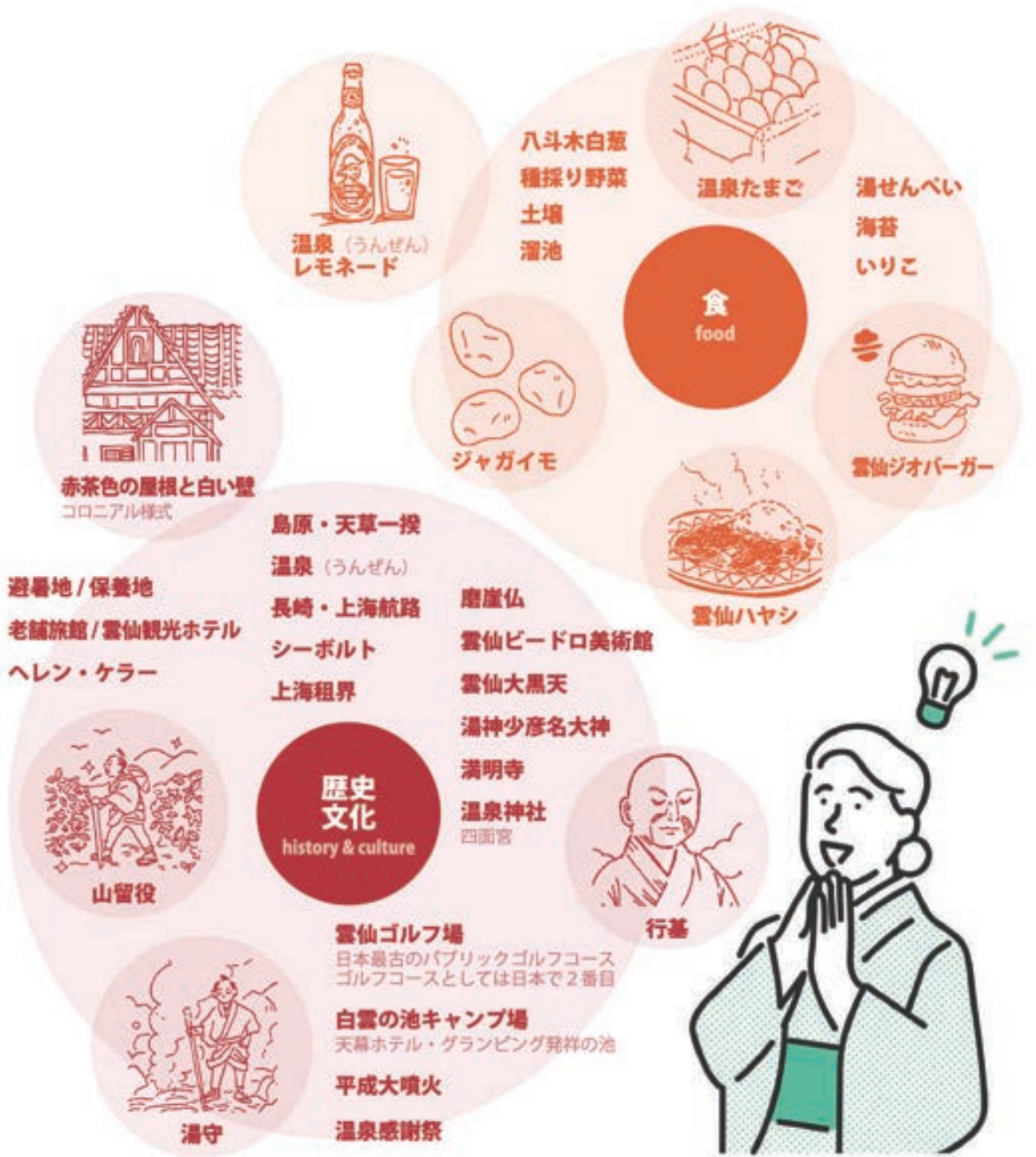


補足

1. 雲仙天草国立公園の指定経緯

1911年(明治44年)に日本で最初の県営公園である県営温泉公園として開園しました。1927年(昭和2年)には、毎日新聞及び東京日々新聞との共催で「日本新八景」の国民投票があり、雲仙は山岳部門で第1位に選出されました。その後、国立公園指定への機運が高まり、日本における最初の国立公園として1934年(昭和9年)3月16日に雲仙国立公園が誕生しました。そして、1956年(昭和31年)7月20日には天草地域が追加され、雲仙天草国立公園となりました。長崎県、熊本県、鹿児島県にまたがり、面積は陸域のみで28,279haとなります。





2. 雲仙温泉地区の歴史

雲仙温泉は島原半島のほぼ中心に位置しています。雲仙はかつて「温泉山」と書いて「うんぜんさん」と読み、山の神が住むと言われていた信仰対象の山であり、多くの僧が集まり、信仰の場として人々に生きる力を甦らせてきました。江戸時代には「島原・天草一揆」により多くの神社仏閣が焼き払われますが、その再建と治安改善のため、温泉を守る「湯守」、そして雲仙の自然を守り育てる「山留役」の人々が雲仙に入り、四季折々の美しい景観を残し続けました。幕末にはシーボルトが自著「日本」のなかで「UNZEN TAKE」を紹介し、明治時代から昭和初期にかけて外国人の一大避暑地として賑わいます。1934年（昭和9年）には日本で最初の国立公園に指定され、日本中に雲仙が知れ渡りました。地球の躍動を感じる雲仙地獄や、世界一新しい山・平成新山、430万年前から今もお火山活動が続く島原半島は、2009年に日本初となるユネスコ世界ジオパークにも認定されています。



来訪者に望まれる体験

(来訪者にこのような利用をして欲しい)

experience

自然
(温泉)
nature



雲仙の四季折々の自然環境を見たり、歩いたりして楽しんでほしい

宿泊施設に泊まったり温泉に浸かったりしてゆっくり過ごし、リラックス(リフレッシュ)してほしい

間近に迫る海、山、田、畑の絶景を楽しんでほしい

世界で一番新しい山である平成新山を間近で見えてみて、大地の営みのスケールを感じてほしい

誰もいない夜の雲仙地獄で自然と対話してほしい



白雪の池キャンプ場やおしどりの池、旧八万地獄などで星空を楽しんでほしい



仁田峠、岳道、吹越峠をドライブ・ツーリング・サイクリングすることで、高度感や気温の違いを五感で感じてほしい

雲仙地獄などを歩き、地球の躍動・鼓動を感じて、自然や人とのつながりを感じてほしい

ロープウェイに乗って、誰もが標高1300mへの空中散歩と山頂での絶景を気軽に楽しんでほしい

地獄から生まれたばかりの本物の源泉かけ流しの温泉に浸かり大地のパワーに癒されてほしい

雲仙岳(三峰五岳)に囲まれている雲仙温泉街ならではの手軽なトレッキングで海山の絶景、四季の移ろいを楽しんでほしい

食

food

地産地消にこだわった
滋味豊かな野菜や
肉魚、飲み物をたく
さん味わって健康に
なってほしい



四季の風景と一緒に、
旬の食べ物を味わっ
てほしい

歴史や土地に紐づく
職人の知恵が脈々と
残る食を、ルーツと
共に楽しんでほしい



時代に合わせてこの
土地ならではの価値
を落とし込んだ食を、
新しい世代の職人の
思いと共に楽しんで
ほしい

生産者のこだわりや
思いが詰まった食材
を楽しみ、そして日
常生活でも味わって
ほしい

歴史 文化

history & culture

お山の情報館別館に
展示してある古写真
や絵ハガキなどを見
て、当時の雲仙に思
いを馳せてほしい



赤屋根に白壁の統一
された街並みを散策
して、明治～昭和初
期のかほりが残るノ
スタルジーな面影を
探してほしい

農業・漁業体験を通
して雲仙の暮らしを
体験してほしい



共同浴場や宿泊施設、
飲食店、お土産屋さん
などで、地元の人達と
の交流や何気ない会話
を楽しんでほしい



雲仙大黒天磨崖仏や
満明寺、温泉神社か
らパワーをもらって
ほしい



自然の移ろいに身を
任せて時間を忘れ、
何もしないという豊
かな時間を過ごして
ほしい

様々な歴史や自然が
折り重なる雲仙をガイ
ドと一緒に回ること
で、その価値を分か
りやすく理解し、新
しい自分に出会って
ほしい

住民の思いや地域の
課題に触れ、観光客
から一歩踏み込み、
この町に関わりまた
来たいと思ってほし
い

その他

others

お客様と共有したい雲仙温泉 ならではの価値

value unique to Unzen

インタープリテーション全体計画では、雲仙温泉を訪れた方と共有したい地域の魅力、お客様に伝えたい地域の大切な価値を文章化して整理しています。たくさんの価値があると思いますが、そのなかでも特に他地域には無く、その場所（雲仙温泉）を特徴づけている、その場所ならではの価値に絞っています。

価値に紐づいているストーリーは、様々な地域の景観や文化的資源に通底する（共通している）考えや見方を、端的な文章としてとして記述しています。インタープリテーション全体計画でまとめた、お客様と共有したい雲仙温泉ならではの価値は次のとおりです。

雲仙ならではの価値 1：火山と人々の暮らし

雲仙ならではの価値 2：外国人避暑地としての歴史

雲仙ならではの価値 3：雲仙温泉と信仰

雲仙ならではの価値 4：自然の恵みと心身の健康（ウェルネス）



value unique to Unzen

雲仙ならではの価値 1 火山と人々の暮らし

火山がもたらす恵みとそこで生きる困難さ、雲仙温泉街の人々はその両面を受けとめながら、自然を巧みに活用し、この土地に生きてきた。雲仙岳は現在進行系で変化する「生きている火山」である。周辺では火山の影響を受けた独特の景観や植生をみることができる。そして、ここでの人々の営みは、自然と共生することの大切さを伝えてくれる。

雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

火山と人々の暮らし 1-1

日本で誕生した新しい山の一つ「平成新山」がある

多くの火山がある日本の中でも、雲仙岳の最高峰である平成新山は1990年（平成2年）から1996年（平成8年）雲仙普賢岳の平成大噴火によって誕生した新しい山のひとつである。雲仙温泉地区が位置する島原半島は、約430万年前から平成大噴火までの火山活動の変化を辿ることができる。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences



- 普賢岳の新登山道に登り、火山活動の変化をたどり、平成新山を間近に感じる

■ 平成新山を眺める



- 仁田峠循環道路の第二展望台から平成新山を眺める
- 仁田峠にある雲仙ロープウェイから普賢岳や平成新山を眺める（ジオ好きな方には、妙見駅（山頂駅）から5分で登れる、妙見カルデラ展望所からの妙見カルデラ越しの普賢岳や平成新山の眺めもお勧め（解説板もあります）
- 地元ガイドによるニーズに合わせたオリジナルツアーもお勧め（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）
- お山の情報館での登山体験会に参加する（お問い合わせはお山の情報館 0957-73-2543 まで）

■ 島原半島ユネスコ世界ジオパークを訪ねる



- ユネスコ世界ジオパークの拠点施設である雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）や、平成新山ネイチャーセンターを訪ねる
- ユネスコ世界ジオパークに登録された数々のジオサイトを訪問（お勧めのジオサイトのお問い合わせは、がまだすドーム内のジオパーク事務局 0957-65-5540 まで）

*ジオパークとは：

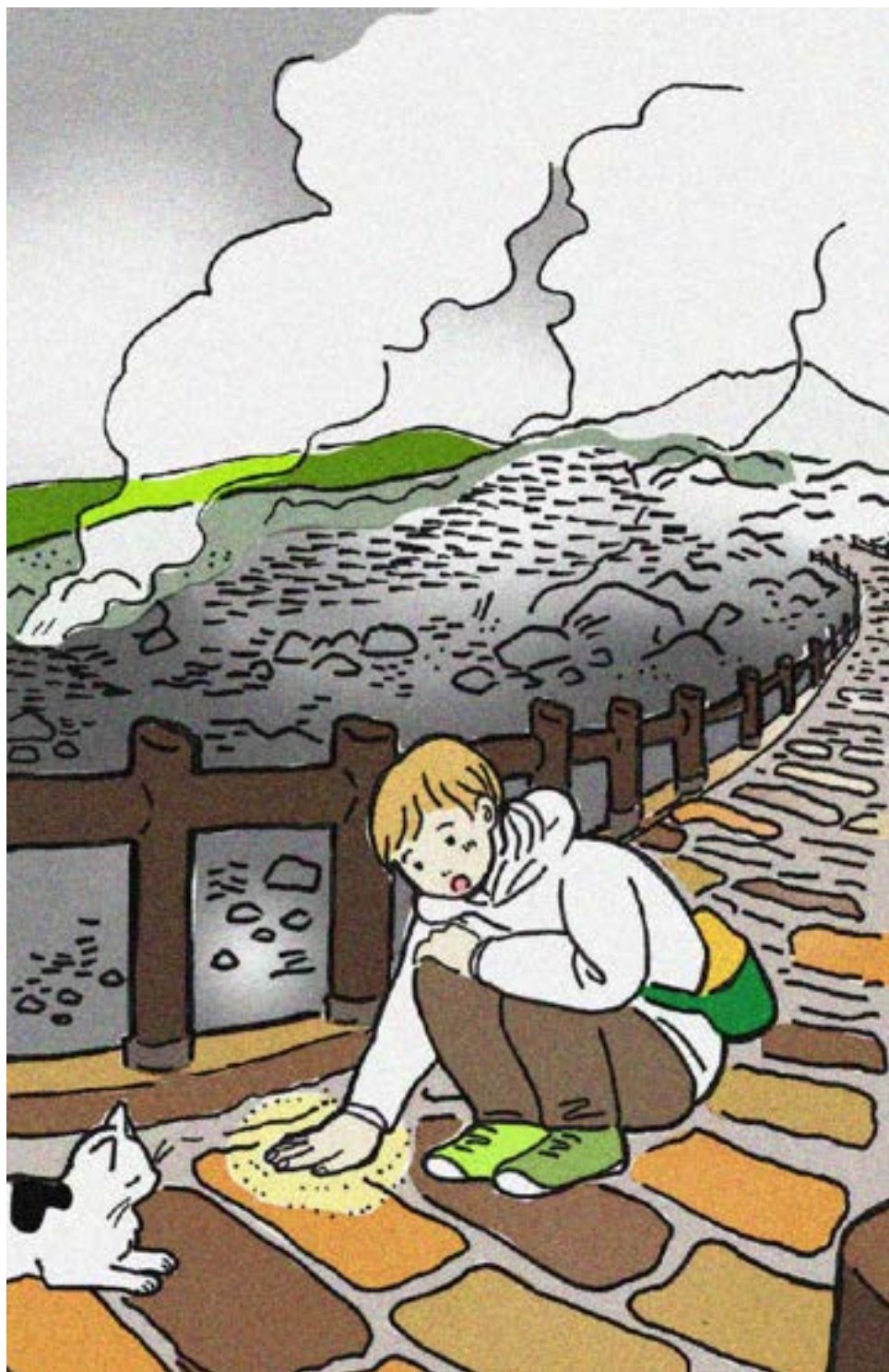
https://www.unzen-geopark.jp/geopark_about/



火山と人々の暮らし 1-2

動き続ける雲仙地獄が、地球の躍動・鼓動を伝えてくれる

雲仙地獄は生きており、地球の躍動・鼓動をダイレクトに感じることができる。地獄そのものも移動しており、現在最も活発な地獄は大叫喚地獄だが、かつては旧八万地獄、さらに数千年前には現在の原生沼に活発な地獄があったと考えられている。現在の「いぶき地獄」は、2020年（令和2年）までは駐車場だった。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 旧八万地獄



- 旧八万地獄では、地熱体験ができる。かつては活発な地獄活動があったが、現在は、噴気現象は落ち着いており、周囲から離れた静かな場所で、広場の石畳を触ると「地熱」でぼかぼかと暖かく、いまだに大地のパワーを感じることができる。
- 森に囲まれており周囲の光が入らないため、夜にはぼかぼか温まりながら満点の星空を眺められる隠れスポットに。別名、月面地獄の名前も納得。
- 夜の旧八万地獄で寝転がってみると上空には満点の星空、背中には地熱の温もりを感じられ、光り輝く星空の瞬きも、背中に感じる地熱も、星々が生きている証であり、私たち人間もそこに生きる一部であることを実感することができる。冬場には電気のいらぬエコなこたつ「エコタツ」や「ナイトエコタツ」で地熱を身近に感じるイベントが開催されることも（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）。

■ 雲仙地獄、温泉街の散策



- 原生沼、旧八万地獄、大叫喚地獄など、雲仙地獄やコンパクトな温泉街を歩くといろいろな発見が！
- 地元ガイドによる雲仙地獄のガイドツアーもお勧め（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）

■ 原生沼



- かつては地獄であった場所が、その後、周囲からの水や土砂の流入で湿原化した場所。
- 周回できる探勝路があり、かつて地獄だった湿地には様々な季節の花が見られる。

火山と人々の暮らし 1-3

雲仙の植生は火山活動と密接に関係している

火山の活動は植生にも影響を及ぼし、ミヤマキリシマ（雲仙ツツジ）に代表される特有の植物景観を育んでいる。火山の環境に耐性を持つ植物だけが選択されたり、森林へと遷移する途上の特徴的な植生がみられる。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ ミヤマキリシマ



- 4月から5月にはミヤマキリシマが雲仙岳をピンク色に染める。ミヤマキリシマの見頃は雲仙地獄周辺（4月下旬）、池ノ原園地・宝原園地（5月上旬～中旬）、仁田峠（5月中旬～下旬）である。
- ミヤマキリシマが雲仙に多くの残っているのは、実は火山のお陰だけではない。かつて山岳ならではの冷涼な気候をいかし、雲仙温泉街周辺では多くの羊を放牧していた。そのおかげで羊などの偶蹄目（2本や4本など偶数のひづめを持つほ乳類。牛・羊・シカなど）が食べられないアルカロイドを含むツツジ類が選択的に残されて来た歴史もある。放牧しなくなった今では、雲仙温泉街の人たちが下草刈りを行い、ミヤマキリシマの保全と継承を行っている、まさに、火山と人との合作と言える。

■ ヒカゲツツジの群落

- 普賢岳の新登山道などでは、平成新山の噴火に伴って周辺の木々が枯れ、それまで目立なかったヒカゲツツジの群落が見られるようになった。これも、今しか見られない絶景である。（見ごろは5月初旬～中旬頃）

■ 原生沼



- かつては地獄であった場所が、その後、周囲からの水や土砂の流入で湿原化した場所。
- 周回できる探勝路があり、かつて地獄だった湿地には様々な季節の花が見られる。

■ 地獄の植生



- 雲仙地獄では、シャシャンボ、シロドウダン、ツクシテンツキなど火山の地質やガスに強い、植物が優先している。
- 他の場所では強い植物に座を譲ってしまい見られなくなる植物が、過酷な環境に適応し、他の植物が入り込めない環境の中で、たくましく生きている様子を見ることができる。

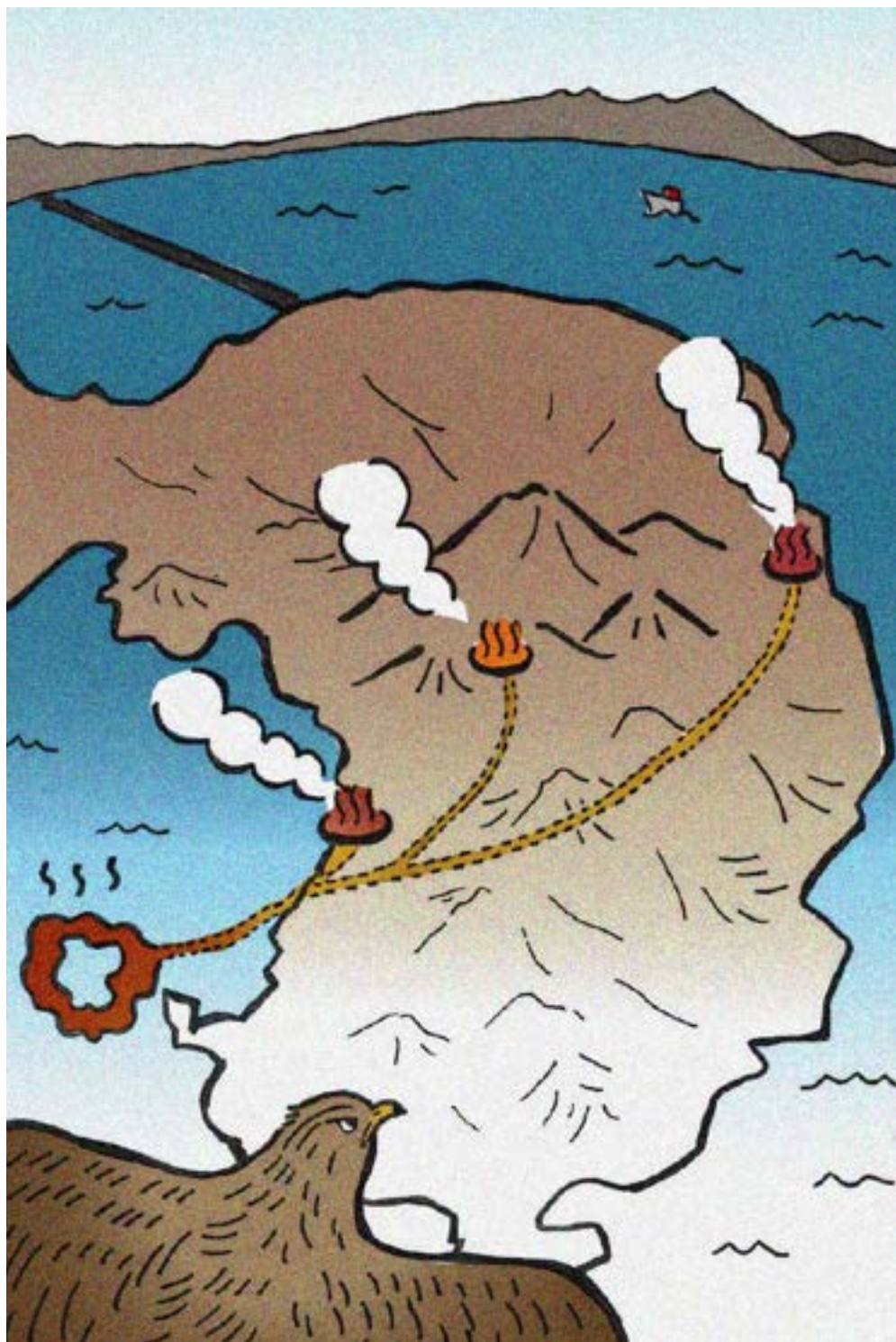
雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

火山と人々の暮らし 1-4

雲仙地獄や三つの異なる泉質をもつ温泉はマグマからの贈り物である

橘湾の海底マグマ溜りから発生した高温高圧のガスは、岩盤の裂目を通じて上昇し、雲仙地獄の湯けむりとなって現れている。また、高温高圧のガスが斜めに上昇することにより、小浜温泉、雲仙温泉、島原温泉の各温泉では、火山の構造から異なる温度や泉質を持っており、島原半島だけで、コンパクトに、多様な温泉が楽しめる。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 雲仙温泉共同浴場・日帰り温泉めぐり



- 新湯共同浴場 (9:00 ~ 22:00)、湯の里共同浴場 (だんきゅう風呂) (9:00 ~ 22:00)、小地獄温泉館 (9:00 ~ 19:30(20:00))、雲仙よか湯 (10:00 ~ 20:30(21:00))。新湯地区には足湯もある。

■ 島原半島温泉めぐり

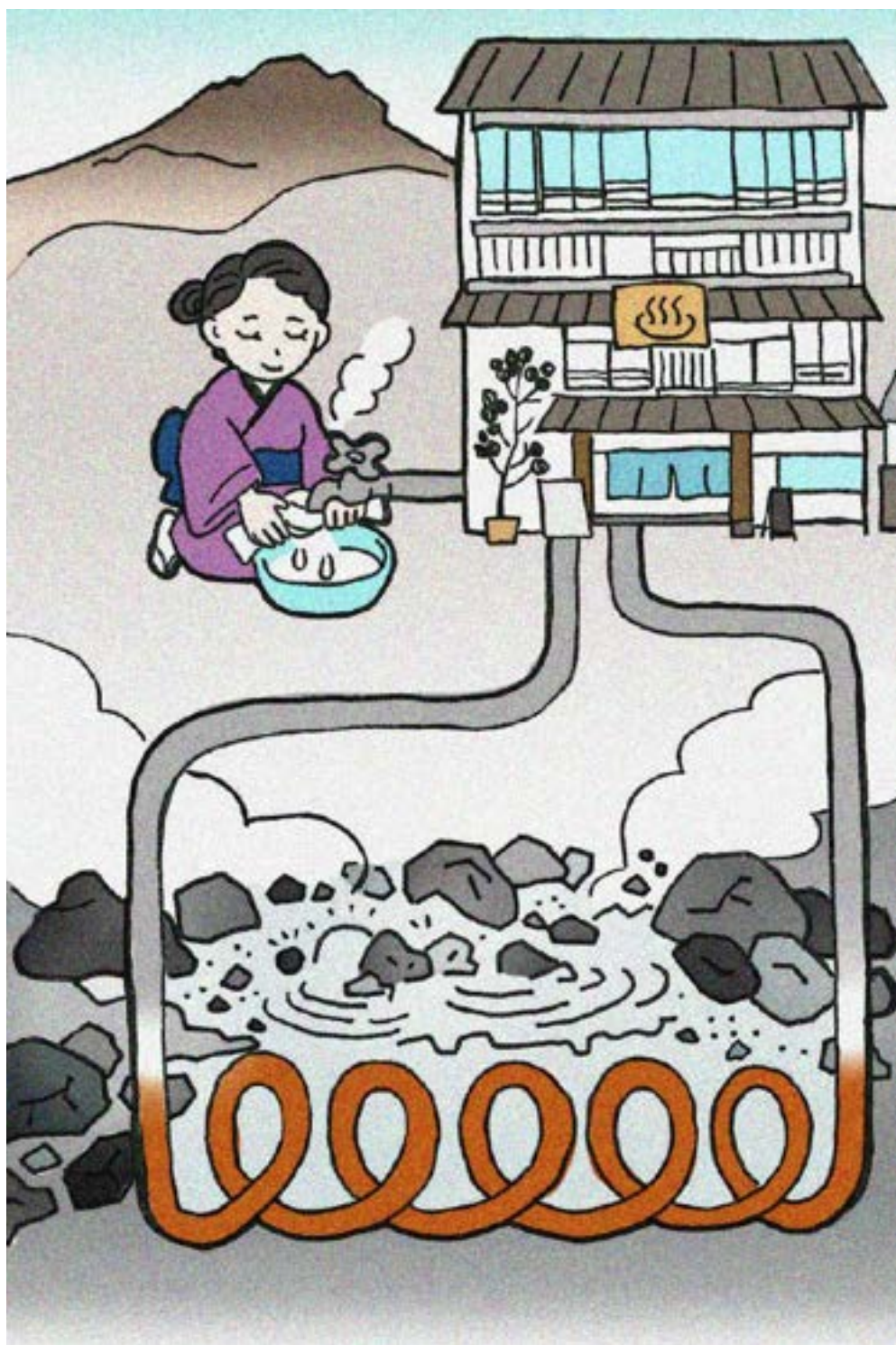


- 島原温泉の炭酸泉で毛穴を広げ、雲仙温泉の硫黄泉で殺菌し、小浜温泉の塩化物泉で身体を温めることで美肌効果があると言われている。
- それぞれの温泉の特徴をそのままに、美肌のためのフェイスマスクの雲仙温泉郷3湯シリーズ「島原美人」、「雲仙美人」、「小浜美人」がごございます。(お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで)

火山と人々の暮らし 1-5

雲仙温泉街は火山や地獄と共生している

雲仙温泉は、ボーリングされた温泉ではなく、地獄から自然に湧き出る温泉を直接湯船にひいている、火山の恵み・大地のパワーをダイレクトに体感でき、心身ともにリフレッシュさせてくれる貴重な温泉地である。一方、硫黄の噴気現象があることから、地獄の近くでは硫化水素の影響により電気製品の配線の腐食等による傷みが激しいなど、暮らすには苦労も多い。雲仙温泉は、火山の恵みと困難さを享受し、火山や地獄と共生してきた温泉街である。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 各宿泊施設のほか、雲仙温泉共同浴場・日帰り温泉めぐりで、大地のパワーでリフレッシュ



- 新湯共同浴場（9:00～22:00）、湯の里共同浴場（だんきゅう風呂）（9:00～22:00）、小地獄温泉館（9:00～19:30(20:00)）、雲仙よか湯（10:00～20:30(21:00)）などで、火山の恵み・大地のパワーを感じ、心身ともにリフレッシュ。新湯地区には足湯もある。

■ 爛付け

- 雲仙温泉には、古くから山水（やまみず）などを地獄に引き込み、地獄の熱を利用し、自然の力で温めて施設の暖房や給湯に利用する、CO₂を排出しないエコな「爛付け」と呼ばれる仕組みがあり、これも地獄と共生してきた雲仙温泉の先人からの暮らしの知恵である。

■ 地獄にみられる配管



- 地獄には配管が多くみられるが、これは地獄から湧き出る温泉を湯船に引き込む配管や、爛付けの配管であり、地獄の地熱を利用して暮らし、火山と共生してきた雲仙温泉の営みの知恵の証でもある（ただし、今後、景観的には改善を図っていく予定）。

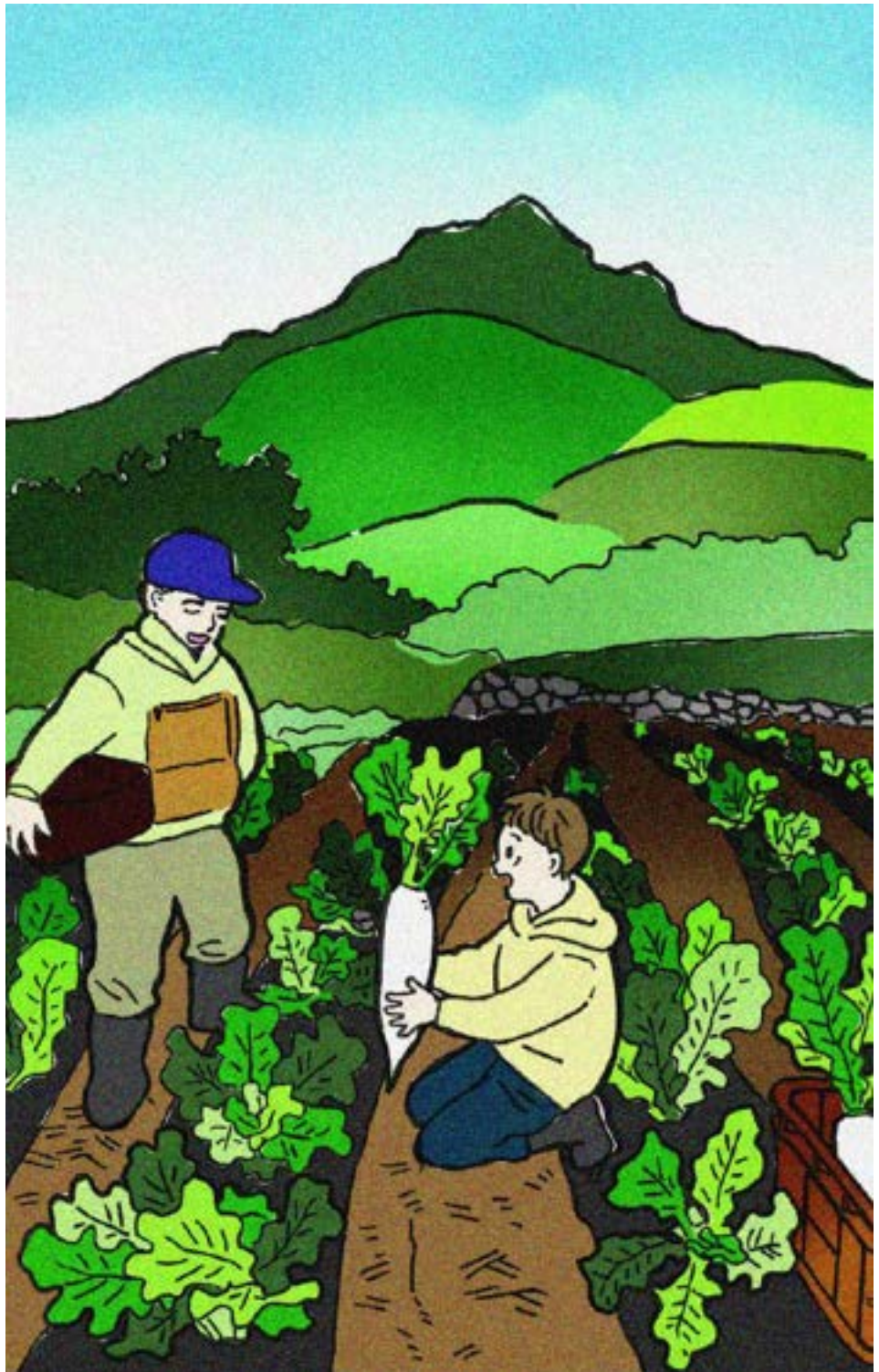
雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

火山と人々の暮らし 1-6

火山と人が生み出して来た豊かな農耕風景がある

火山の裾野である傾斜地の畑では、水はけのよい土壌を生かし、火山性の地形や岩石を生かした石積みの棚畑がつくられており、赤黄色の土壌と相まって美しい景観を作り出している。島原半島には、火山活動の性質や年代の違いなどから、黒、赤、黄色と、色や性質の異なる土壌の畑があり、それぞれの性質を生かした農作物が作られている。特に景観の特徴の一つにもなっている赤黄色土の畑では、鉄分の多い酸性土壌を活かして味にも定評があるジャガイモが春秋2回生産されており、雲仙市のジャガイモ生産高は、市町村単位で全国一位である。また、谷あいや保水性の良い黄色の土壌では、豊富な石を生かした石積みの棚田風景も広がり、やわらかい黒ボク土では、根菜類などが育てられている。これら田畑の農耕風景は、火山を起因としながらも、それらの特徴を巧みに活かし、営みを続けて来た地域の人たちが、営々と築きあげて来た、火山と人が苦勞しながらも共生して来た証である。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ いろいろな農作物がつくる特徴的で多様な景観



- 島原半島では、普賢岳の火山活動に起因する多様な土壌（一説には7種類もあるといわれている）に、多様な環境や標高差なども相まって、取れない野菜は無いと云われるほど（一説には200種類もあると云われている）の野菜が育てられている。
- 愛野町のジャガイモ畑の風景。石垣で組まれた棚畑の奥に普賢岳を望む。
- 南串山棚畑展望台や周辺の南串山町や小浜町の北串地域では、普賢岳をバックに海を望み、棚畑風景が広がるジャガイモの一大産地となっている。なお、夏には「緑肥」として畑にすき込むヒマワリも育てられ、コントラストも美しい。
- 千々石町岳（たけ）地区の棚田風景。日本の棚田100選にも選ばれており、国道57号線から雲仙温泉に至るまでの県道128号沿いに棚田展望台がある。
- 有明海側では、雲仙岳の山麓に広大な畑作地帯が緩やかに広がり、有明海へ続く風景は島原半島の北側（地元では「北目（きたんめ）」と呼ぶ）を代表する風景。
- 水はけのよい土壌を生かして、小麦、葉たばこなども栽培されている。
- 島原半島の名産であるそうめんは、火山性の水はけのよい土壌により小麦栽培に適した大地と、火山の恵みである湧水、海の塩という、自然の恵みに、島原・天草一揆（島原の乱）以降、入植された小豆島などから伝わった技術が合わさり生産が盛んになったと言われており（諸説あり）、まさに土地のストーリーを持った名産品である。

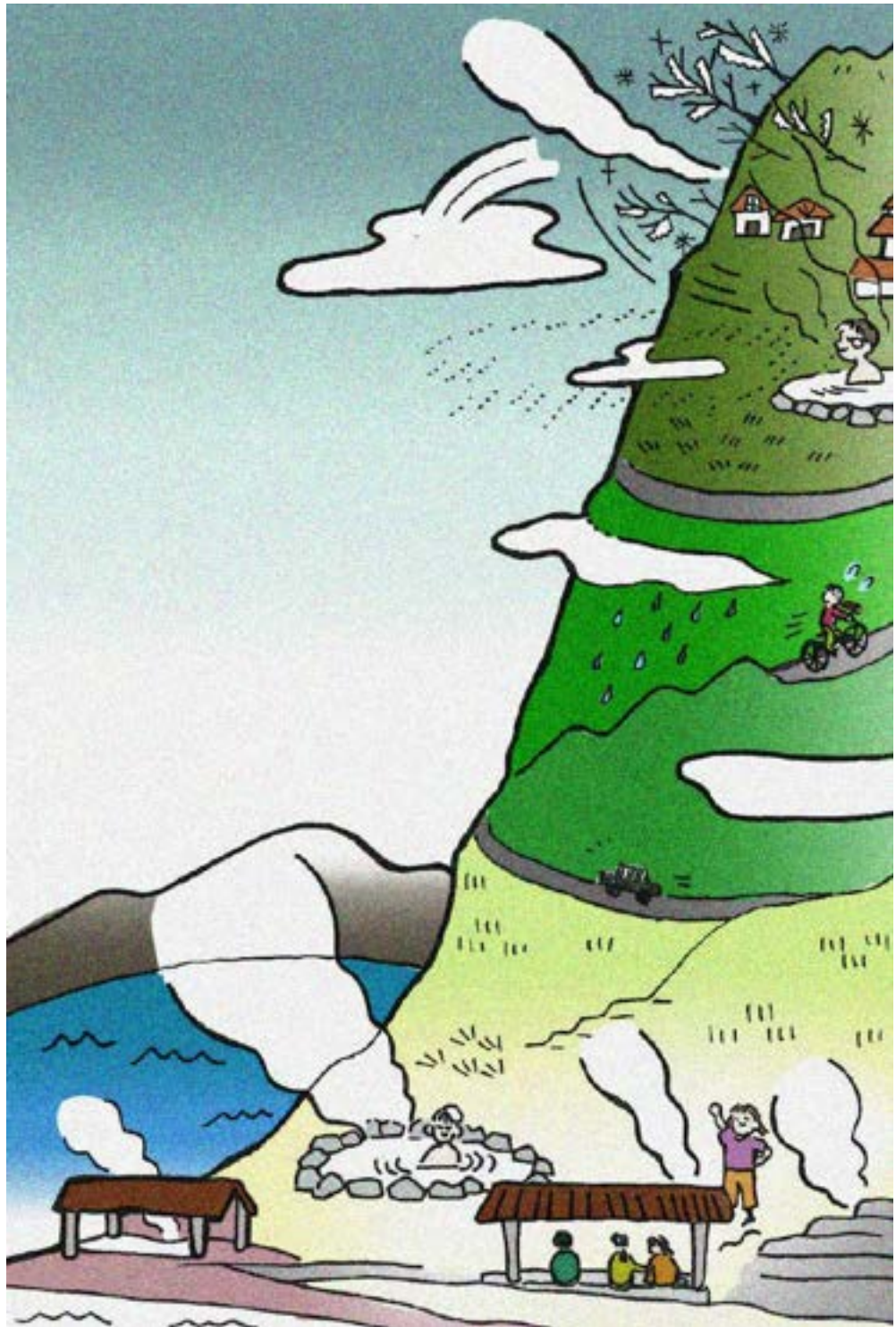
雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

火山と人々の暮らし 1-7

火山で出来た半島だからこそその気候・風景・自然現象が見られる

島原半島は火山起因の半島であり海と山が近く、海の上に急激に立ち上がった形が特徴。海沿いから雲仙温泉地区まで標高差7〜800メートルあり、低地より4〜5度は、涼しい気候となっていて、夏の平均気温は札幌と同じくらいと言われている。海を見下ろす美しい風景がいろいろな場所で楽しめるほか、移ろう天気の一瞬の変化や、霧氷などの自然現象、夜の星空の綺麗さも、この地形ならではの価値。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 涼しい気温



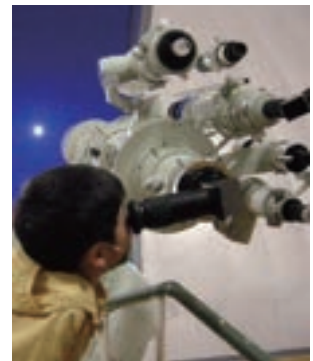
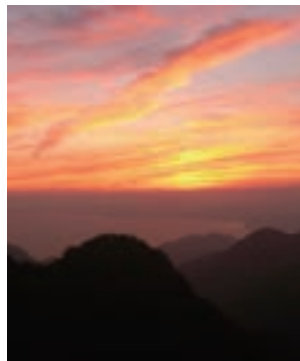
- 海沿いから雲仙温泉地区まで標高差7～800mあり、気温は100m上がるごとに0.6℃下がるので、低地より4～5度は涼しい気候となっていて、夏の平均気温は札幌と同じくらいと言われており、明治初期から避暑地としても親しまれている。

■ 海を見下ろす絶景



- ドラゴンロードや仁田峠循環道路を車でドライブすると、真下に海や町が見える絶景スポットがたくさんある。ドラゴンロードの夕日の見える展望台や、吹越峠などもお勧め。
- 窓を開けて走れば標高差による気温の違いも感じることができ、爽快感がお勧め。
- 車でも楽しめるが、よりアクティブ好きな方には坂に強いE-bike（電動アシスト付き自転車。仁田峠まで立ち漕ぎせずに、座ったまま行けます）をレンタルしてサイクリングを楽しむと、絶景の中、眼下に海を眺め、風を感じながら走る爽快感と、絶景スポットに気軽に止められる手軽さがやみつきになるほどお勧め（E-bike レンタルやお勧めコースのお問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）。
- 歴史・地理好きな方には、山から海を眺める絶景が国立公園指定の要素にもなっており、昭和初期、雲仙温泉周辺の山岳地域には、放牧地が多く、今以上に多くの道から海が眺められたことが評価されたストーリーも。

■ 特有の天気・自然現象・星空



- 海の上に急激に立ち上がった火山の半島だからこそ、雲仙温泉街の天気はコロコロと変わりやすく、霧や霧氷（冬季）の自然現象なども発生しやすい。霧などの天気の悪い日でも一瞬で晴れたり、虹がかかったり、そんな時でないとなじみない風景との出会いを楽しんでいただくのもお勧め。自然の移ろいに身を任せるだけでも。
- 海の上に急激に立ち上がった火山の半島だからこそ、天気よい時は星空も綺麗。星空を楽しめるイベント・スポットも多数。
 - ・雲仙仁田峠プレミアムナイト（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）
 - ・雲仙諏訪の池ビジターセンターには、九州で二番目に大きい天体望遠鏡があり、週末を中心に星空観測会が実施されている（お問い合わせは雲仙諏訪の池ビジターセンター 0957-76-5010 まで）
 - ・白雲の池のキャンプ場でテントからの一面の星空を独り占め。白雲の池に写った星空も幻想的で超お勧め（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで）
 - ・旧八万地獄で星空を眺める（ストーリー1-2に記載）

value unique to Unzen

雲仙ならではの価値 2 外国人避暑地としての歴史

江戸末期からの国際化の流れのなかで、長崎という地理的な条件や自然環境に恵まれた雲仙温泉は、外国人の避暑地として開発され、外国人が日本の自然や文化に触れる数少ない窓口の一つとなった。こうした経緯から、日本で最初の国立公園にも指定され、その当時の自然が今も残されている。写真などの記録が多く残されていることや、当時から続いている観光施設などから、歴史の移り変わりや当時の文化を体感することができる。雲仙温泉は、日本のインバウンド観光の先駆けともいえる場所である。

外国人避暑地としての歴史 2-1

世界に開かれた雲仙を今も感じ取れる

1823年に出島のオランダ商館医として来日したシーボルトは滞在中に日本の調査・研究を行い、成果を著書「日本」として出版、その中で「UNZEN TAKE」を紹介した。これにより雲仙の名が世界に知られるようになった。1854年の開国後、条約によって開かれた港の一つであった長崎には、東アジア在住の欧米人が長崎・上海航路を利用して訪れた。それに伴い、避暑／保養を目的に多くの外国人が雲仙を訪れるようになり、国策として外国人向けの洋式ホテルや外国人専用ホテルが開業し、最盛期には年間3万人もの外国人が訪れたとされている。

明治以降に外国人向けとして開発された地区が、今の雲仙温泉の新湯地区であり、それまでの湯治場としての趣を残すのが古湯地区であり、この歴史上の成り立ちの違いを、今でも街並みに見ることができるところに、温泉街のいたるところに、当時を彷彿とさせるコロニアル様式の赤屋根に白壁や回り廊下などを見ることが出来る。また、当時の写真や文化の記録が多数残されていることも雲仙温泉ならではのストーリーである。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences



- 外国人避暑地時代の貴重な写真や道具が、多く展示されている。(右下の写真に写っているのはヘレンケラーとサリバン先生)

■ 極楽公園展望台、絹笠山山頂展望台・雲仙ロープウェイからの眺め

- 外極楽公園展望台や絹笠山山頂、雲仙ロープウェイからは雲仙温泉の街並みを一望でき、赤屋根・白壁に景観が統一されていることがわかる。

■ 雲仙観光ホテル

- 雲仙観光ホテルは外国人避暑地時代の華やかな雰囲気や今に伝えている。日本の在来建築にヨーロッパのアルプス地方に見られるスイス山小屋風のデザイン（ハーフティンバー様式）を融合しており、経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されている。
- 雲仙観光ホテルの外観（国道から眺めるだけでもお勧め）やロビーはもとより、館内のカフェやバー、昼食に訪れ、外国人避暑地時代に思いを馳せることができる。

■ 雲仙温泉の街並み

- 雲仙温泉は雲仙プラン50という街づくりの計画により、外国人避暑地時代をコンセプト（コロニアル様式の赤屋根に白壁や回り廊下など）にした街づくりが行われている。お山の情報館別館、観光案内所（雲仙観光局）や郵便局、駐在所、環境省自然保護官事務所などの建物を見て回るだけでも当時を偲ぶ街歩きが楽しめる。

雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

外国人避暑地としての歴史 2-2

自然を活かした優雅な長期滞在が「ハイカラ文化」を生み、今尚その片鱗を見ることができる

外国人避暑地時代、外国人たちは雲仙滞在中にゴルフやテニス、ダンスパーティー、ハイキング、プール、乗馬など、自然を上手に活用しながら長期滞在を優雅に楽しんだ。それらは、ハイカラ文化と呼ばれ、現在もゴルフ場や白雲の池キャンプ場、山の呼び名、雲仙温泉の街並み、ホテルや飲食店で提供される料理などにそれらの片鱗をみることができる。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験 1

places and experiences

■ 雲仙ゴルフ場



- 雲仙ゴルフ場は1913年(大正2年)に開場した。1903年(明治36年)に開場した神戸ゴルフクラブ(会員制)に次ぐ、日本で2番目に古い歴史を持つゴルフ場である(日本におけるパブリックコースとしては最も古い歴史を持つ)。機械ではなく人力で整備されたフェアウェイには細やかなアンジェレーションがあり雲仙温泉の自然を感じながらゴルフをできるだけではなく、同時に歴史も感じることができる。
- 雲仙ゴルフ場のクラブハウスには食事処(57食堂)も併設されており、ゴルフをプレイしなくとも気軽にその雰囲気味わうことができ、食事処の脇やロビーからの階段には当時の写真などが多数展示されている。かつては羊を飼っていた放牧地を利用しており、当時の写真にも羊がグリーンに入らないような小さな柵がしてあることが分かる。
- 雲仙ゴルフ場と提携した宿泊プラン「温泉deゴルフデビュー大作戦」では、宿泊者限定で3ホールから気軽に利用でき、チェックインから夕食までの空き時間にゴルフを楽しむことができる(お問い合わせは雲仙観光局0957-73-3434まで)。

■ 白雲の池キャンプ場



- 外国人避暑地時代に白雲の池には多くの外国人が訪れた。もともと白雲の池は、放牧していた羊の飲み水場として使用されていた。そこに、温泉街の宿に入りきらなくなった外国人の避暑客用に、当時の鉄道省やジャパンツーリストビューロと雲仙温泉の人たちが協力し、天幕ホテルを設置したことが白雲の池キャンプ場の始まりである。
- ロングテーブルを並べ、天幕を張り、ゆったりとした食事を楽しんだ。今流行りのグランピングの先駆けとも言えるかもしれない。
- 野外で音楽やダンスパーティーを楽しんでいた様子が、白雲の池キャンプ場に今も残る石垣のステージが物語っている。おそらくステージ上で、生バンドが演奏をしていたと思われる。
- 当時の様子を再現しようと地域の人たちが中心となり「天幕レストラン」を開催しており、雲仙観光局に依頼すれば完全オーダーメイドで、地元の食材を地域のホテルのシェフたちが料理をして提供する「野外レストラン」として実施してくれるサービスもある(お問い合わせは雲仙観光局0957-73-3434まで)。

ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験 2

Value unique to Unzen

■ 絹笠山（サンセットヒル）・高岩山（ロッキーヒル）



- 雲仙岳の一座である絹笠山（879m）は外国人避暑地時代から夕日の展望スポットとして有名であり、サンセットヒルと呼ばれていた。これは当時、山岳ならではの冷涼な気候をいかして、羊を放牧していた雲仙温泉周辺の山には樹木がほとんどなく、草原であったためヒル（丘）と呼ばれ、橘湾に沈む夕日を見てから温泉街に降りて来られたことから夕陽のメッカとなり、サンセットヒルと呼ばれるようになった。また、高岩山（881m）は溶岩の巨石が盛り上がっていることからロッキーヒルと呼ばれ、どちらも雲仙温泉街から手軽に登れる山であり、当時の外国人が楽しんだ風景を現在でも楽しむことができる。

■ 雲仙ハヤシ



- 外国人が避暑に訪れはじめた際、雲仙温泉街の人たちは外国人の口に合う食べ物がわからず、工夫を凝らし、例えばカツ丼にデミグラスソースをかけた食べ物を提供し、当時人気があった。それが現在、地域の宿泊施設や飲食店で提供されている「雲仙ハヤシ」のはじまりであった。
- 地元の飲食店では店舗ごとに工夫を凝らした雲仙ハヤシを提供している。それぞれのお店で食べ比べするのはオススメだ。

value unique to Unzen

雲仙ならではの価値 3 雲仙温泉と信仰

飛鳥時代の高僧、行基が開山したと伝承される雲仙温泉は、古くから信仰の舞台として人々の生きる力を育んできた。平安時代後期の永久3年（1115年）には、雲仙の名の由来にもなっている「温泉山」の名で修験道の霊場として栄えはじめ、戦国時代の永禄10年（1567年）の「肥前日記」には、多くの寺院仏閣が立ち並んでいたことが記されている。その後も、キリスト教が島原半島に伝わってからは、宗教の対立や弾圧の場となるなど、様々な歴史が刻まれている。

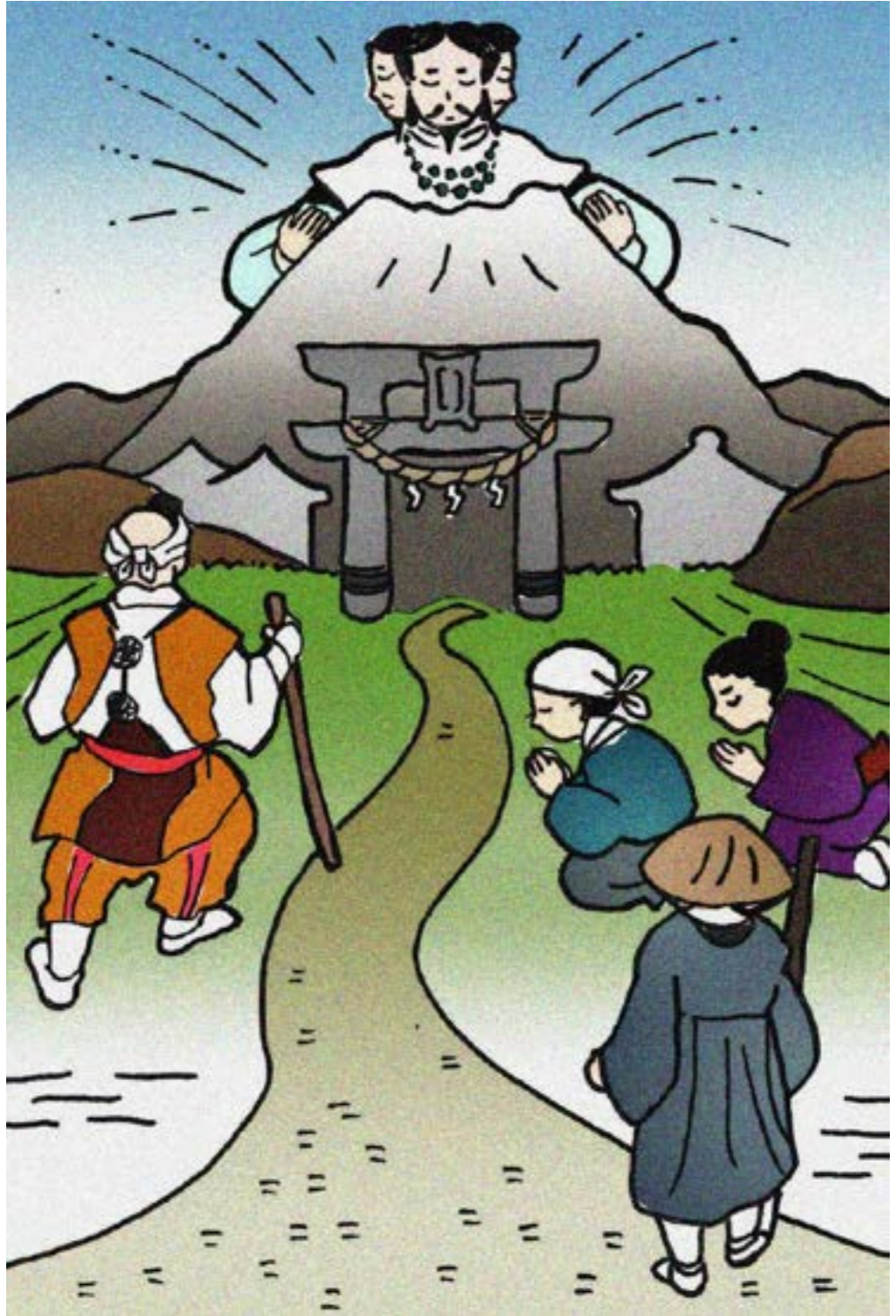
雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

雲仙温泉と信仰 3-1

雲仙温泉のはじまりは、九州の守り神、山岳信仰・修験の山であった

雲仙温泉は大宝元年（701年）に行基が温泉を見つけ、満明寺を開創したことが始まりとされている。満明寺を開創したと同時に九州の守り神を祀る神社「四面宮」も創祀され（現在の温泉神社）、山号を「温泉山（うんぜんさん）」とした。山岳信仰の霊山として多くの僧が集まり、平安末期から戦国時代にかけては最盛期には千もの僧坊があったとされている。雲仙地獄はもともと満明寺の境内地であり、お坊さんによる説法などに使われていた歴史がある。満明寺は、元龜2年（1571年）白雀の乱や寛永14年（1637年）の「島原・天草一揆」などで何度も焼失したが、今なお高台から雲仙温泉街を見守り続けている。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 満明寺



- 行基が建立した満明寺には江戸時代の石碑や全長5mの24金（24金でないと硫化水素で変色してしまうそうだ）を5層に施してある大仏などがある。境内には行基菩薩像や、ミニ四国八十八ヶ所めぐり（境内の歩道に沿って四国八十八ヶ所の土が埋めてある）などもあり、気軽に巡礼することができる。

■ 温泉（うんぜん）神社 - 四面宮 -



- 古事記には「九州は、身一つにして面四つあり」と書かれている。ここ温泉神社の起源では行基が雲仙を訪ねた際に、白い大蛇が天を昇り、一身四面の美女が現れて「私は九州の守り神である」と言い、大きな光を放って消えたと伝えられている。そこから温泉神社は「お四面さん」と呼ばれるようになり今では温泉神社として地元で親しまれている。
※九州は1つの体（大陸）に4つの顔（国）があって、一身四面の神様がまもっている大陸と言われており、九州の4つの顔とは「筑紫の国」「豊の国」「肥の国」「熊曾の国」でした。時は流れこの4つの国は9つの国に分かれていった。

筑紫の国→筑前・筑後

豊の国→豊前・豊後

肥の国→肥前・肥後

熊曾の国→日向・薩摩・大隈

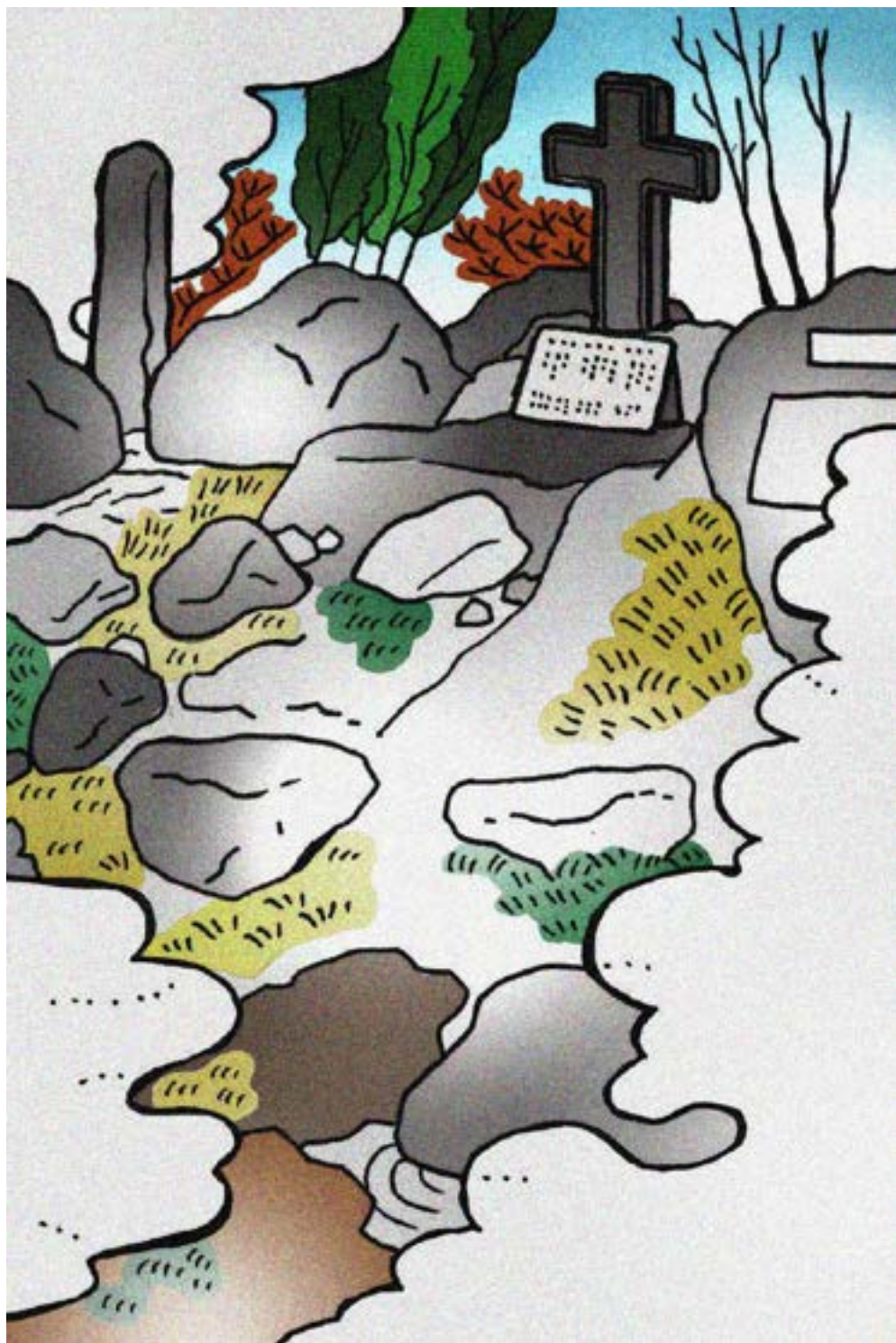
このように、4つの国から9つの国になったことで「九州」という呼び名が誕生した。



雲仙温泉と信仰 3-2

「地獄」はキリシタン殉教の舞台になった

16世紀に始まったポルトガルとの交易以降、外国の異文化との接点であり続けた長崎周辺は、キリスト教を始めとする異文化の影響を強く受けてきた。キリスト教は島原半島にも広がり、様々な影響を及ぼした。江戸時代には、幕府が出した禁教令により1627年から1632年の間にキリシタンの棄教を迫る拷問が雲仙地獄で行われ、三十余人の信者たちが殉教した。このことが島原・天草一揆の一因であるとも言われている。「地獄」と称される特異な景観には、ときに崇高で、ときに残酷な人々の営みの歴史が刻まれている。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 雲仙地獄

- お糸地獄を見渡す高台に殉教者を供養するための十字架が立てられており、毎年5月には殉教祭が行われ世界中から信徒が礼拝に集まる。
- 雲仙地獄は『沈黙』（遠藤周作）や『サイレンス』（マーティン・スコセッシ監督）の舞台にもなっている。

■ カトリック雲仙教会

- 雲仙温泉にはお寺や神社だけでなく、札の原という地区にキリスト教会も存在しており、日曜礼拝も行われている。申し込みが必要だが、教会を見学することもできる（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3434 まで。管理されている方に、おつなぎさせていただきます）。

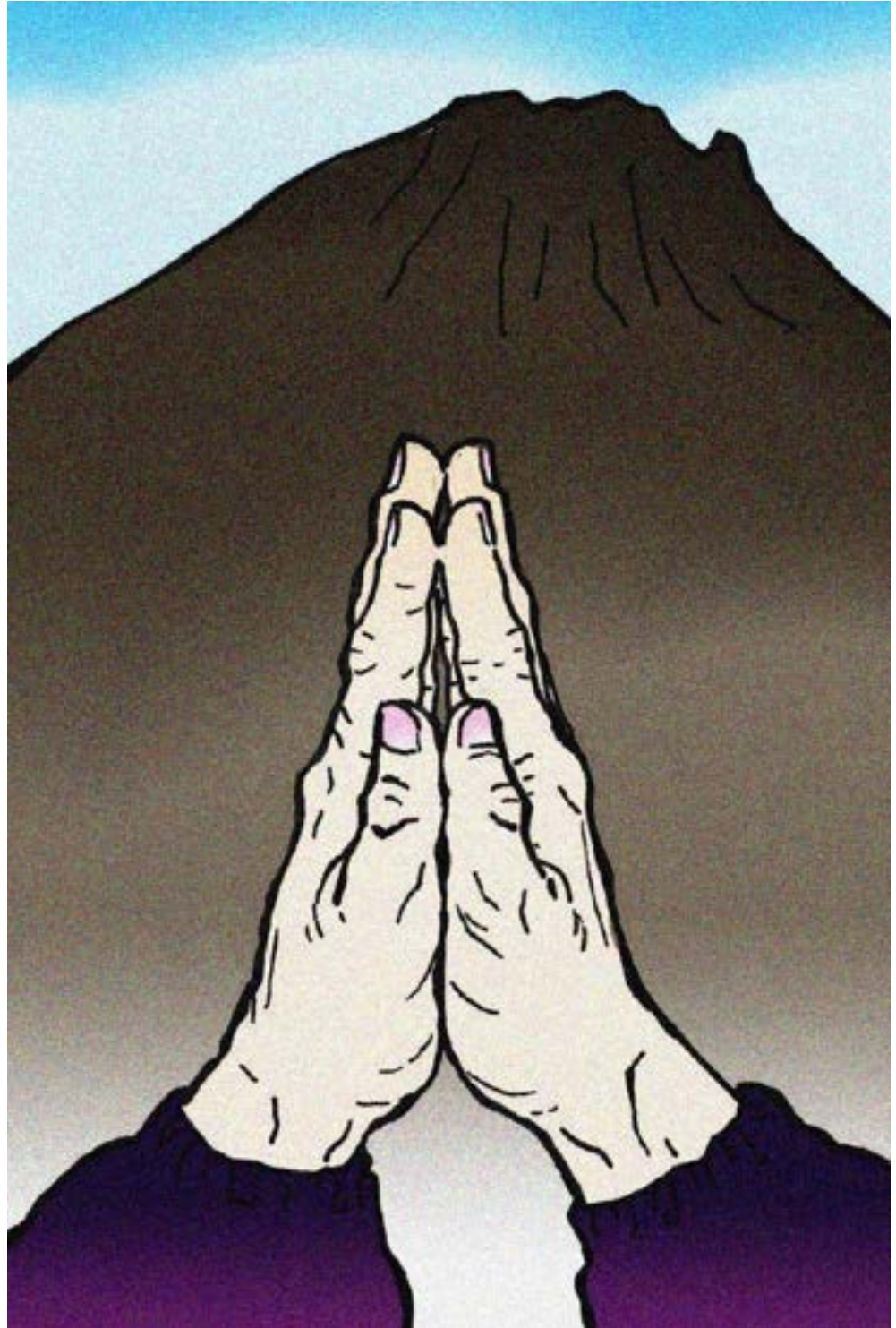


雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

雲仙温泉と信仰 3-3

今もなお、山に向かって手を合わせる暮らしがある



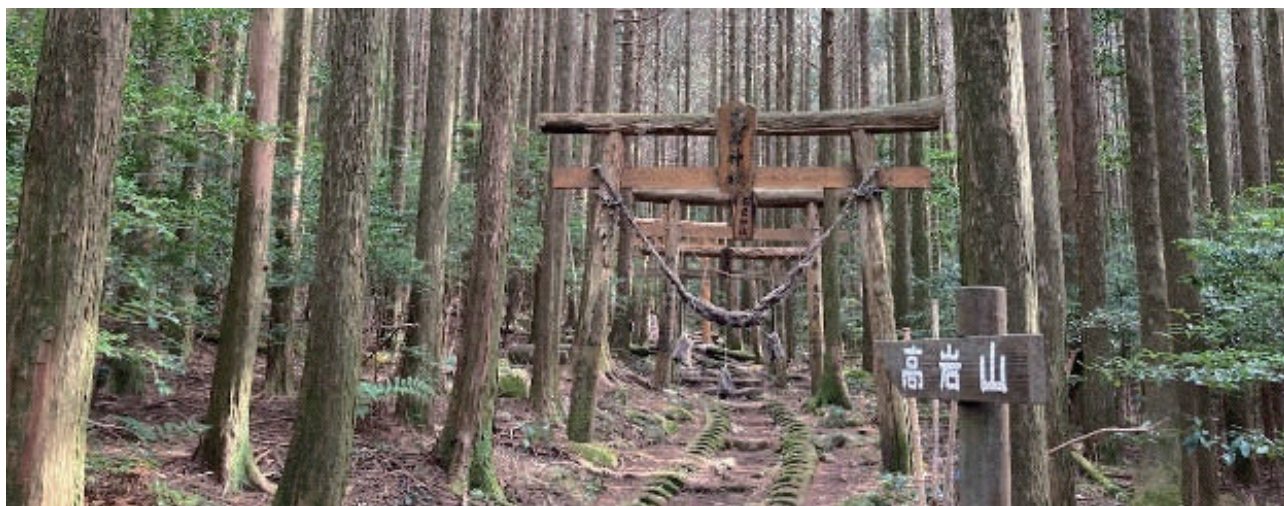
島原半島は430万年前の噴火で誕生して以来、多くの噴火を経験し、現在の姿となった。噴火というのは人々に恐怖を与えるとともに、噴火によってできた山々は沢山の恵みを与えてくれる。そこに住む人々は山の恐ろしさを知ると共に、日々恩恵に感謝し崇めてきた。雲仙岳の1座である高岩山には「みそ五郎」という巨人伝説が残っている。これは高岩山に住み、山麓に住む人々の手助けを多くした心優しい巨人の話。南島原市方面の山麓から見ると普賢岳がまるで高岩山に腰掛けて見えることなどから、沢山の恵を与えてくれる山々への感謝を擬人化して伝わった話だと考えられている。

火山があるからこそ、豊かな土壌に恵まれ、豊富な湧水により人々の生活を豊かに潤してきた。今でも、島原半島には、雲仙岳や普賢岳を「お山雲仙」「お普賢さん」と呼び、1日の始まりに山に向かって手を合わせる人々が暮らしている。

ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 高岩山



- 登山口には、山麓の人々が寄進したたくさんの鳥居が出迎え、みそ五郎伝説ゆかりの跡地が登山道に数カ所あり、山を登りながら地元の人々が大切にしている山を感じることができる。



高岩山にこしかけている“みそ五郎”に見える、普賢岳



value unique to Unzen

雲仙ならではの価値 4 自然の恵みと心身の健康(ウェルネス)

変化に富んだ地理や地質の条件が生み出す豊かな食材、泉質のよい温泉、歴史ある宿泊施設、自然体験に適した遊歩道、雄大な景色を楽しめる登山道、キャンプ場、歴史や文化に根ざした神秘性などが相まって、雲仙を訪れる人に、楽しい余暇、そして心身の健康を高める機会を提供してくれる。

雲仙ならではの価値

value unique to Unzen

自然の恵みと心身の健康(ウェルネス) 4-1

火山と人が育てて来た豊かな食材がある

雲仙岳山麓には、火山活動に起因する多様な土壌（一説には7種類もあるといわれている）の特徴を巧みに活かし、営みを続けて来た地域の人たちが営々と築きあげて来た、火山と人の共生の証でもある多様な耕作風景が広がっている。多様な環境や標高差なども相まって、取れない野菜は無いと言われるほど（一説には200種類以上もあると云われている）の野菜をはじめ豊かで多様な自然に裏打ちされた農業、漁業、畜産業等からこだわりの価値ある食材の数々が生み出されている。島原半島はそうした種類や収穫の多さ、その形から「1億人の胃袋」と呼ばれ、中でも雲仙市は長崎県1位の農業生産高を誇る。特にじゃがいもは全国有数の生産量、いちごは市町村単位で全国3位の収穫量となっている。また、種とり野菜などの伝統農法やオーガニック野菜をはじめ、八斗木白葱や雲仙牛、雲仙あかね豚、雲仙ブリなど、いずれも生産者こだわりの食材も多く、滋味豊かで健康になれる、豊かで価値ある食材は手塩にかけて育てた雲仙の火山と人の合作である。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences



- 雲仙市の景観の特徴の一つにもなっている赤黄色土の畑では、鉄分の多い酸性土壌を活かして味にも定評があるジャガイモが春秋2回生産されており、雲仙市のジャガイモは全国有数の生産量を誇ります。また、種類も豊富で、デジマ、ニシユタカ、アイユタカ、ナガサキコガネ、サンジュウマル、フゲンマルなどの多様な品種が栽培されている。デストロイヤーなどの珍しい品種もある。

■ ジャがちゃん



- ジャガイモを丸ごと蒸して、秘伝の衣で包んで軽く揚げた名物「ジャがちゃん」を食べてみよう（千々石観光センター）。



自然の恵みと心身の健康(ウェルネス) 4-2

温泉が生み出した独特の食やお土産がある

地獄の蒸気で蒸す「温泉たまご」や、「温泉水」を利用した菓子「湯せんぺい」「湯せんぺい」は明治初期に温泉好きのお殿様に献上する菓子として製造されたのが起源。ほかにも、温泉レモネードは、かつて小地獄地区で作られていた炭酸泉を利用したレモネードを模して作られたもの（現在のものには温泉は入っておりません）であり、小浜ちゃんぽんやパンなどにも温泉水が利用されている。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 湯せんぺい屋さん



- 遠江屋では、手焼き体験や、体験をしながらの湯せんぺいの興味深い物語を職人でもある若旦那から色々聞けます。

■ 温泉たまご



- 1個食べたら1年長生き。2個食べたら2年長生き、3個食べたら死ぬまで長生きと言われている。

■ 温泉（うんぜん）レモネード



- かつて外国人の避暑客に供するため、小地獄地区で作られていた炭酸泉を利用したレモネードを模して、復刻版として作られたもの（現在のものには温泉は入っておりません）。
- かつて避暑客の一人として訪れ、雲仙温泉で「TSUNAMI」を執筆した、米国のノーベル文学賞作家「パール・バック」をイメージしたイラストのラベルが使用されている。

自然の恵みと心身の健康(ウェルネス) 4-3

滋味豊かなこだわり野菜と料理人のコラボレーションが味わえる

長崎県一の農業生産高を誇る雲仙市では、ジャガイモやイチゴ、ブロッコリー、八斗木白葱や、「種採り野菜」などをはじめ、様々なこだわり野菜の栽培が盛んであり、それらの食材に惹かれて多くの料理人も移住し、こだわりの飲食店や宿泊施設で腕を振るうなど、食の魅力が高められている。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 地元の食材



- 多品種のジャガイモ、イチゴ、ブロッコリー、八斗木白葱、椎茸、棚田米、雲仙茶などが豊かな自然に生まれ、こだわりの農家の手によって、高品質で生産されている。
- 雲仙温泉街の飲食店や宿泊施設の多くも地産地消にこだわっており、地元のこだわった食材をふんだんに利用した食体験ができる。雲仙ジオバーガーなども、そのひとつである。

■ 種採り野菜



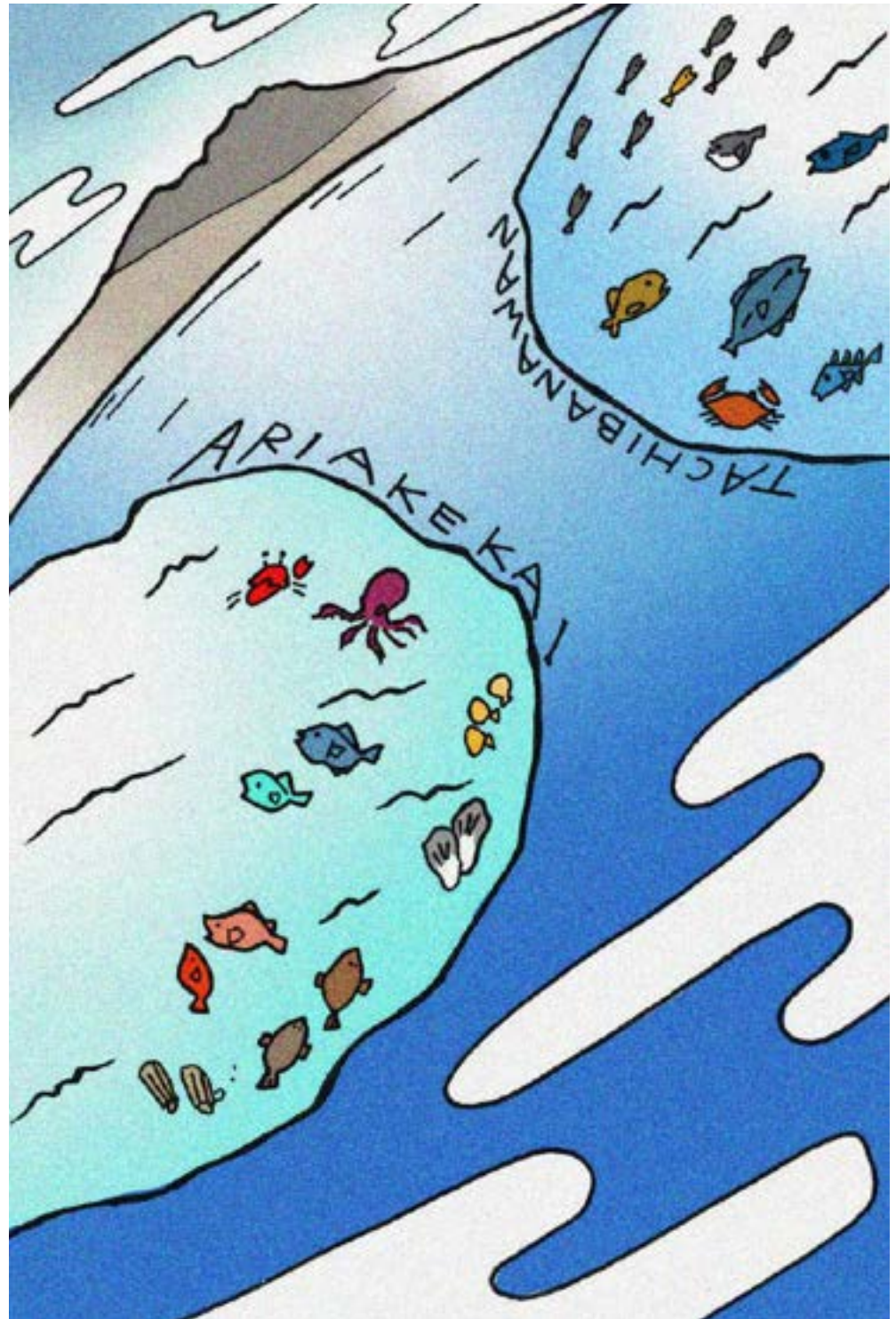
- 種採り野菜とは戦前までは広く採用されていた伝統農法で、種を採りつづけて繰り返し栽培する手法で、雲仙の在来種や長年雲仙の地で栽培され続けその土地に馴染んだ固定種として形質が固定されていく。その過程で土地の気候や風土になじんでいき、農薬や化学肥料がなくても丈夫に育つ、植物本来の力をもった滋味豊かな野菜に育つ。雲仙の種採り野菜の品種としては「雲仙こぶ高菜」「雲仙赤紫大根」「長崎唐人菜」「長崎赤かぶ」「黒田五寸人参」「諫早四月大根」などをはじめ多くの品種がある。
- 千々石にある直売所「タネット」では種採り野菜やオーガニックにこだわった野菜たちが並ぶ。プラスチックフリーでの陳列や焼き物の再利用、古本コーナーなどもあり、オーナーこだわりの物語を聞くこともできる。また、種採り野菜を使ったランチもお勧め。

自然の恵みと心身の健康(ウェルネス) 4-4

二つの異なる海(橘湾と有明海)からの多様な海の幸が味わえる

雲仙岳から流れる清流は陸の栄養を伴って海に注ぎ込み、海の豊かさに貢献している。同時に海は雲仙の食の魅力を高める食材を提供してくれる。島原半島の西側に広がる橘湾は、天然のいけすと呼ばれている。北上する外洋水と、南下する栄養豊富な有明沿岸水がまじりあう場所であり、魚のえさととなる良質なプランクトンが発生しやすい環境であるため、伊勢海老、ヒラメなど的高级魚の他、いりこの原料となるカタクチイワシ(地元ではエタリと呼ぶ)やハモ、フグ、海藻類が獲れる。

一方、東に広がる有明海は九州地方最大の湾であり、広大な干潟が形成される。日本一の海苔の生産地である他、タイラガネ(ワタリガニ)、牡蠣などが名産である。雲仙の食の魅力は、大きく性格の異なる東西の豊かな海に支えられている。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 水揚げ・工場見学



- 京泊漁港（南串山）にある天洋丸では、カタクチイワシ漁の水揚げ、いりこ加工場の見学をすることができます（お問い合わせは雲仙観光局 0957-73-3639 まで。おつなぎさせていただきます）。

■ 海の幸を使ったお土産

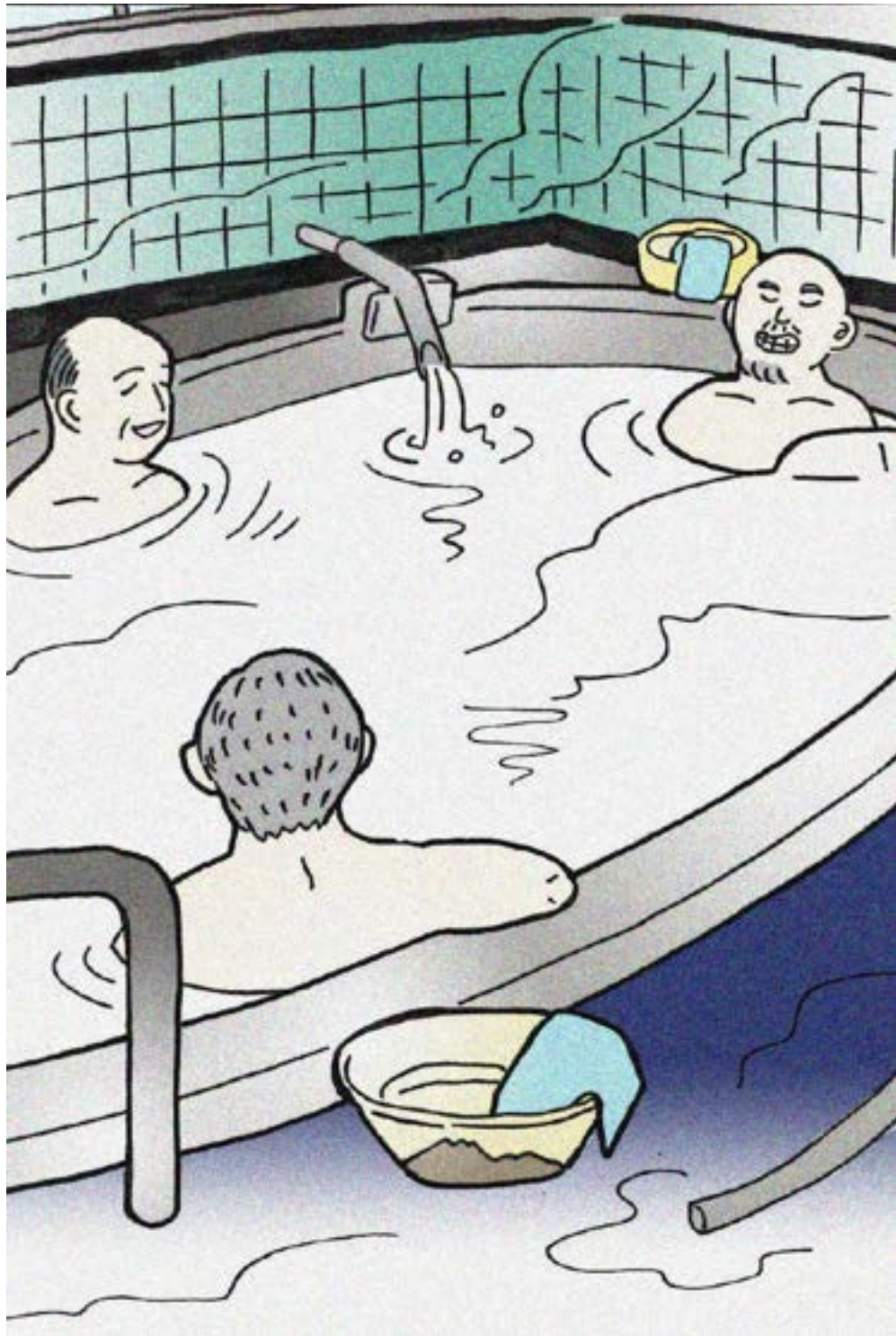


- 両方の海とも、海岸沿いには多くの海産物屋さんがあり、海の恵みをお土産に買い求めることができる。また、季節にはカキ小屋で牡蠣焼きを楽しむこともできる。
- エタリの塩辛：エタリとはカタクチイワシのことで、エタリの塩辛はいわゆるアンチョビで珍味としてお土産にもお勧め。

自然の恵みと心身の健康(ウェルネス) 4-5

観光と暮らしが近く、共同浴場など、地元住民と触れ合える機会が多い

観光と暮らしが密接な雲仙温泉では、共同浴場や飲食店などで地元の人々と触れ合う機会が多い。雲仙温泉では地域の多くの人は共同浴場を利用するため、お風呂を備えていない家庭もあり、共同浴場は地元の人々と触れ合える絶好の機会だ。地元の人々とのおしゃべりからはガイドブックには掲載されていない新たな雲仙温泉の一面を知ることができる。



ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験

places and experiences

■ 共同浴場・日帰り温泉めぐり



- 新湯共同浴場 (9:00 ~ 22:00)、湯の里共同浴場 (だんきゅう風呂) (9:00 ~ 22:00)、小地獄温泉館 (9:00 ~ 19:30(20:00))、雲仙よか湯 (10:00 ~ 20:30(21:00)) など。
- 新湯地区には足湯もある。

よくある質問

Q&A

お客様によく聞かれる質問に対し、インタープリテーション全体計画を踏まえた回答例を記載しています。この Q&A を活用することで、雲仙温泉らしさ（雲仙温泉ならではの価値）やその体験の仕方をお伝えし、雲仙温泉に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動をお客様に持ち帰っていただく手助けになればと考えています。

Q1 雲仙温泉は他の温泉とどう違うの？なぜ有名なの？

A

多くの温泉地ではボーリングをされていますが、雲仙温泉は地獄から自然に湧き出る温泉を直接湯船にひいています。火山の恵み・大地のパワーをダイレクトに体感できる貴重な温泉地です。

是非、温泉にゆっくり浸かっていただいて、大地のめぐみで、心身ともに、リフレッシュしてください。共同浴場めぐりなんかもお勧めですよ。

参照ストーリー：1-5

Q2 雲仙地獄ってなんですか？

A

橘湾の海底マグマ溜りから発生した高温高圧のガスは、岩盤の裂目を通して上昇し、地下水と混ざり合うことで、雲仙地獄の湯けむりや温泉となって現れています。それが、雲仙地獄です。生きている火山、地球の躍動・鼓動を感じられる場所ですよ。

参照ストーリー：1-4、1-2

Q3 別府の地獄と雲仙の地獄はどう違うの？

A

別府は、ひとつひとつの地獄が観光施設になっていて、入るたびに、お金を払って入ります。人工物に囲われた中で、自然からも人の暮らしからも切り離された観光スポットとしての見る地獄です。

一方、雲仙地獄は、その中に、いくつもの地獄があり、無料の遊歩道で、自由に見て回っていただけます。自然の中で、何千年もかけて火山の力で動いている地獄を、地獄特有の植生や景観なども含め、地熱や湯けむり、音なども含め、地球の躍動・鼓動の中に身を置いて体感いただくことができます。

また、雲仙温泉の温泉は、この地獄から直接湯船に引き込んでおり、火山の恵み・大地のパワーをダイレクトに体感できる貴重な源泉地でもあります。

また、古くから、山水（やまみず）などを地獄に引き込み、地獄の熱を利用し、自然の力で温めて、施設の暖房や給湯に利用する、CO₂ を排出しないエコな「爛付け」と呼ばれる、雲仙温泉独特の仕組みがあり、地獄と共生してきた雲仙温泉の先人からの暮らしの知恵も見ることができます。

雲仙温泉の地獄は、生きている火山を体感し、人の暮らしとの共生を伝えてくれる場所です。

参照ストーリー：1-2、1-3、1-4、1-5

Q4

外国人避暑地時代の雲仙温泉を感じられるところはどこですか？

A

お山の情報館別館には、外国人避暑地時代の貴重な写真や道具が展示されているので、是非、訪れてみてください。また、雲仙ゴルフ場にも、当時の写真や道具などが多く展示されています。

もしも白雲の池キャンプ場に行かれるなら、池から少し上のトイレの隣に、当時から残る石垣のステージがあり、野外で、音楽やダンスパーティーを楽しんでいた時の名残を見ることができます。かつては天幕を張ったホテルが並んでいて、たくさんの外国人が過ごしていた場所でもあります。

雲仙温泉の街並みを歩かれると、白壁に赤屋根、回り廊下がある建物などがあります。お山の情報館別館が分かりやすいと思いますが、これも当時の外国避暑客を受け入れていた建物の様式を、今に伝えているものです。特に、雲仙観光ホテルは当時から残る建物でもあるので、外観を眺めるだけでも価値がありますし、よろしければ、ホテル内のカフェやバーを訪れ、外国人避暑地時代に思いを馳せてみてください。

また、ホテルやレストランなどでも、当時のハイカラ文化を伝えるハヤシライスが名物です。外国人が避暑に訪れはじめた際、雲仙温泉街の人たちは、外国人の口に合う食べ物がわからず、工夫を凝らし、例えばカツ丼にデミグラスソースをかけた食べ物を提供したのが、「雲仙ハヤシ」のはじまりだったとか。是非、味わってみてください。

参照ストーリー：2-1、2-2

Q5

雲仙温泉に昔から伝わるお話を教えてください。

A

Q5-1 雲仙温泉には、九州の守り神が祭られているって、ご存じでした？

A5-1 雲仙温泉を開山した行基が雲仙を訪ねた際に、白い大蛇が天を昇り、一身四面の美女が現れて「私は九州の守り神である」と言い、大きな光を放って消えたと伝えられています。そこから、雲仙温泉街にある温泉神社は「お四面さん（四面宮）」と呼ばれるようになります。

一身四面とは、九州は1つの体（大陸）に、4つの顔（国）があって、一身四面の神様が守っている大陸と言われており、九州の4つの顔とは、「筑紫の国」「豊の国」「肥の国」「熊曾の国」でした。時は流れ、この4つの国は、筑紫の国→筑前・筑後、豊の国→豊前・豊後、肥の国→肥前・肥後、熊曾の国→日向・薩摩・大隈の9つの国に分かれ、「九州」という呼び名が誕生しました。

参照ストーリー：3-1

Q5-2 みそ五郎って、ご存じですか？

A5-2 雲仙温泉街からほど近い、高岩山には「みそ五郎」という巨人伝説が残っています。これは、高岩山に住み、山麓に住む人々の手助けを多くした、心優しい巨人の話です。

南島原市方面の山麓から見ると、普賢岳がまるで、高岩山に腰掛けて見えることから、沢山の恵を与えられる山々への感謝を擬人化して伝わった話だと考えられています。

火山があるからこそ、豊かな土壌に恵まれ、豊富な湧水により人々の生活を豊かに潤してきた島原半島には、今でも、雲仙岳や普賢岳を、「お山雲仙」「お普賢さん」と呼び、1日の始まりに山に向かって手を合わせる人々が暮らしています。

参照ストーリー：3-3

Q6

雲仙温泉ならではの食事はどこで食べられますか？

A

長崎県一の農業生産高を誇る雲仙市では、ジャガイモやイチゴ、「種採り野菜」などをはじめ、様々なこだわり野菜の栽培が盛んで、豚や牛、鳥などの肉の生産も盛んです。

また、橘湾や有明海で獲れる海の幸もオススメです。その中でも一番オススメしたいのは地元の宿泊施設や

飲食店が提供している「雲仙ハヤシ」です。雲仙ハヤシは、外国人避暑地時代に外国人の口に合うようにカツ丼にデミグラスソースかけたことがルーツです。地元の宿泊施設や飲食店では店ごとに工夫を凝らした雲仙ハヤシを提供しているので、是非、食べ比べしてみてください。小腹が空いた時は、雲仙地獄で食べられる、地獄の蒸気で蒸した「温泉玉子」。「1個食べたら1年長生き。2年食べたら2年長生き、3年食べたら死ぬまで長生き」と言われ、普通のゆで卵と一味違う美味しさがあります。雲仙に来たからには、是非、食べてみてはいかがでしょうか。

参照ストーリー：2-2、4-1、4-2、4-3、4-4

Q7 雲仙ならではの土産は何があるの？

A

雲仙と言えばやっぱり温泉。そのため温泉に関連した土産もたくさんあります。例えば、温泉好きのお殿様に献上するお菓子として作られ始めた「温泉水」を利用した「湯せんぺい」などがあります。

温泉（うんぜん）レモネードは、かつて小地獄地区というところで作られていた炭酸泉を利用したレモネードを模して作られたもの（現在のものには温泉は入っておりませんが）で、避暑地時代のイメージを伝えるものです。

また、温泉と言えば美肌。半島には3つの異なる泉質の温泉があり、島原温泉の炭酸泉で毛穴を広げ、雲仙温泉の硫黄泉で殺菌し、小浜温泉の塩化物泉で身体を温めることで美肌効果があると言われており、それぞれの温泉の特徴をそのままに、美肌のためのフェイスマスクの雲仙温泉郷 3湯シリーズ「島原美人」、「雲仙美人」、「小浜美人」がごございます。女性の方への土産であればこれもオススメです。

参照ストーリー：4-2、1-4

Q8 オススメの日帰り温泉はどこですか？

A

各旅館・ホテルの温泉もオススメです。共同浴場には旅館・ホテルとはまた違った良さがあるのでオススメです。例えば、雲仙温泉では、地域の多くの方は共同浴場を利用するため、お風呂を備えていない家庭もあり、そのため、地元の人々と触れ合える絶好の機会です。地元の人々とおしゃべりからはガイドブックには掲載されていない新たな雲仙温泉の一面を知ることができます。

今からの時間、ここからだ、●●(都合の良いところをご紹介)がお勧めですね。それぞれ趣が違いますので、共同浴場・日帰り温泉めぐりも良いですよ。

参照ストーリー：4-5

Q9 星空はどこから綺麗に見えますか？

A

週末が中心になりますが、雲仙仁田峠プレミアムナイトに参加いただいたり、雲仙諏訪の池ビジターセンターにある九州で二番目に大きい天体望遠鏡を使っての星空観察会に参加いただくのもお勧めです。キャンプがご趣味なら白雲の池キャンプ場でテントからの一面の星空や、白雲の池に写った星空は幻想的で非常にお勧めです。その中でも温泉街から歩いて行けて、他ではできない体験ができるのが旧八万地獄です。夜の旧八万地獄で寝転がってみると上空には満点の星空、背中には地熱の温もりを感じられ、光り輝く星空の瞬きも、背中に感じる地熱も、星々の生きている証であり大げさに言うと宇宙と一体になれるような特別な体験ができます。また、地元ガイドに案内してもらおうと、更に特別な体験になると思います。

参照ストーリー：1-2、1-7

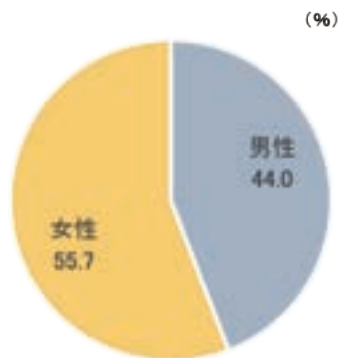
来訪者層の想定 (現状及び今後期待される来訪者)

Unzen City Tourism Marketing Report 2022

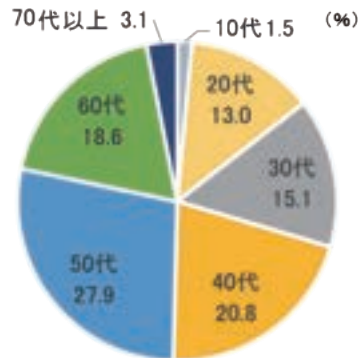
雲仙市観光動向調査結果 (12月速報)

雲仙観光局では、本市を訪れる訪問客の動向をリアルタイムで把握するために、令和4年6月より訪問客アンケートを実施しています。今月の特集では、12月19日現在までに回答頂いた806名の皆さまの集計結果をお伝えいたします。(N=806) ※全国平均は「じゃらん宿泊旅行調査2021」とした。

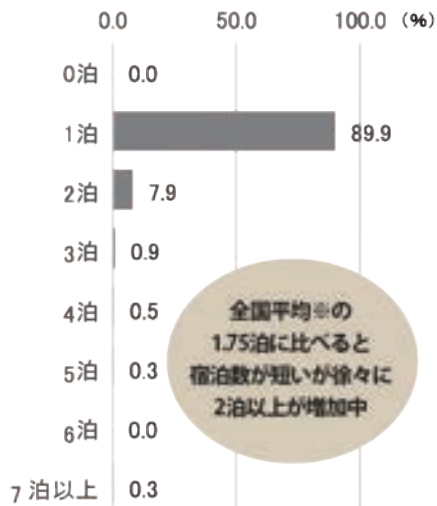
■性別



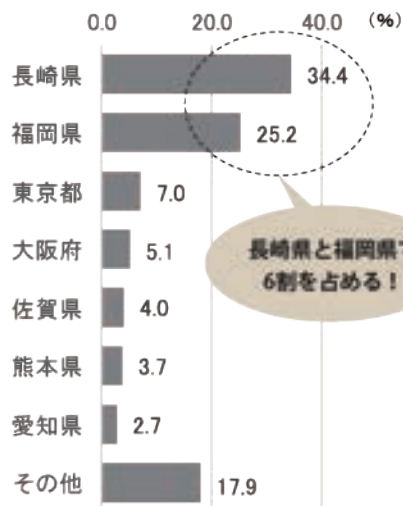
■年代



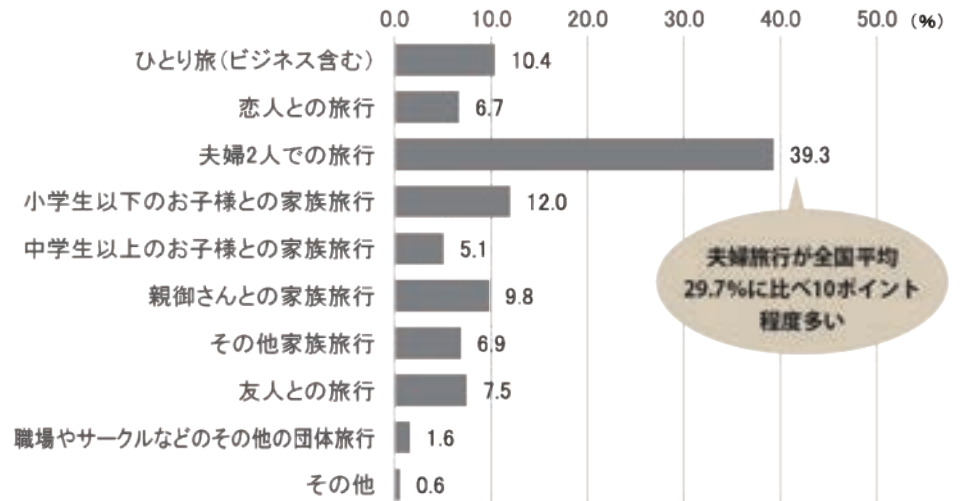
■雲仙市内での宿泊数



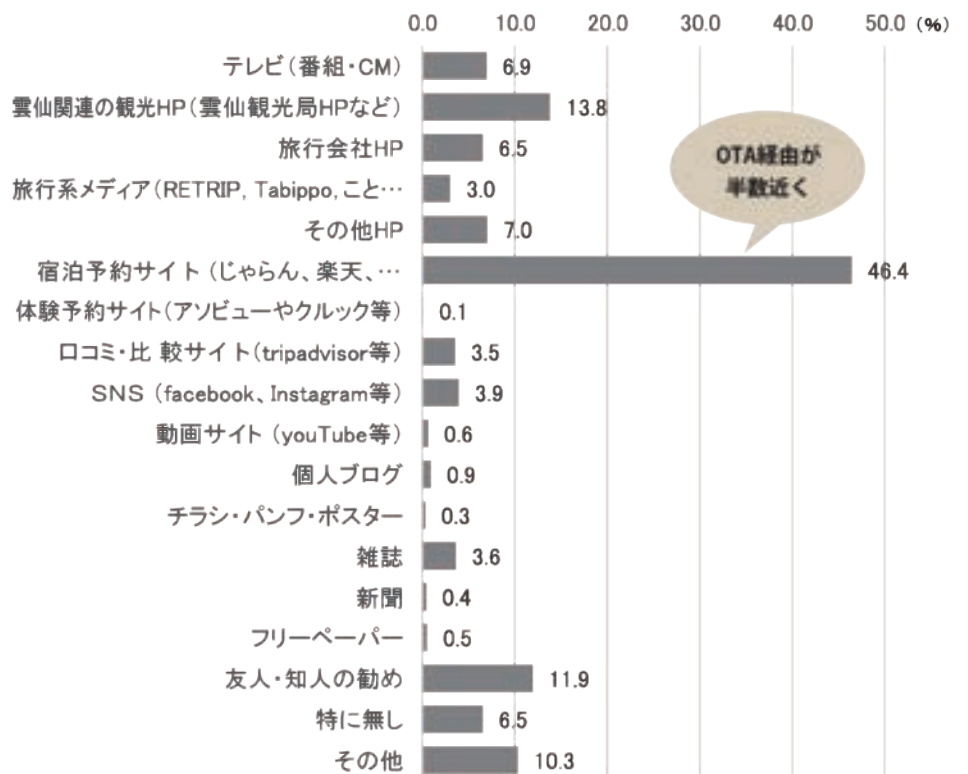
■住まい



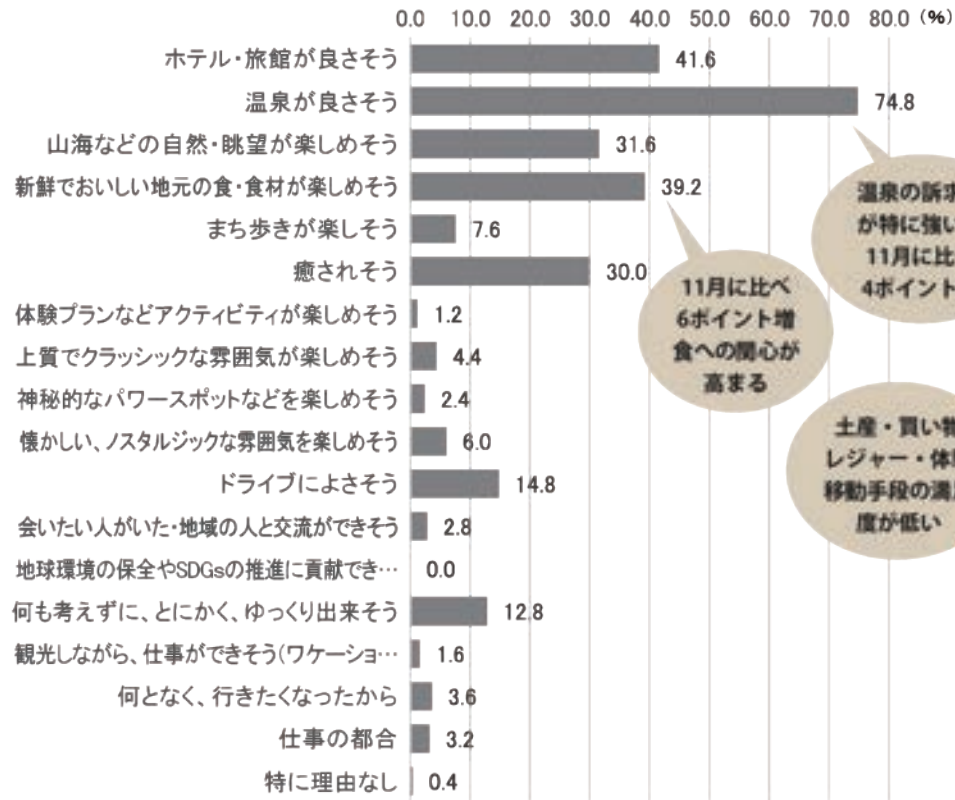
■雲仙市の訪問形態



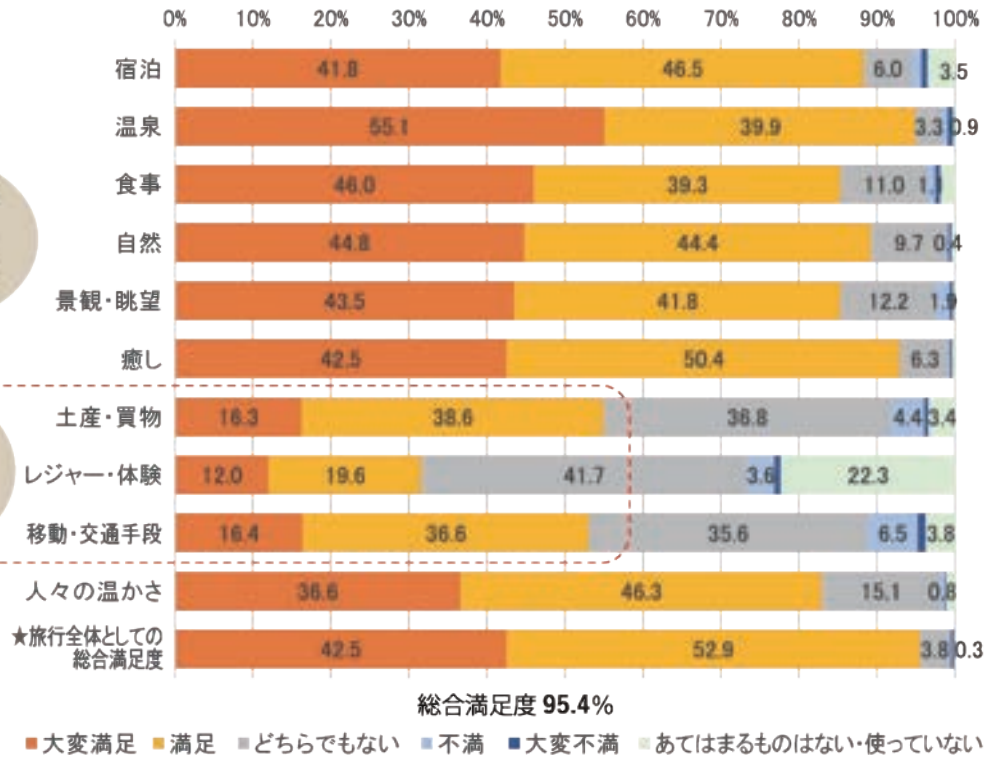
■雲仙市訪問のきっかけとなった情報源・使った情報源 (複数回答)



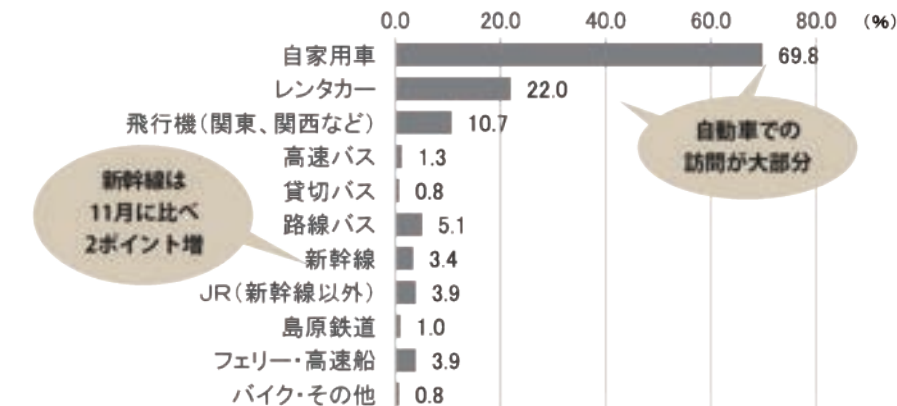
■雲仙市を旅先に選んだきっかけ（複数回答）



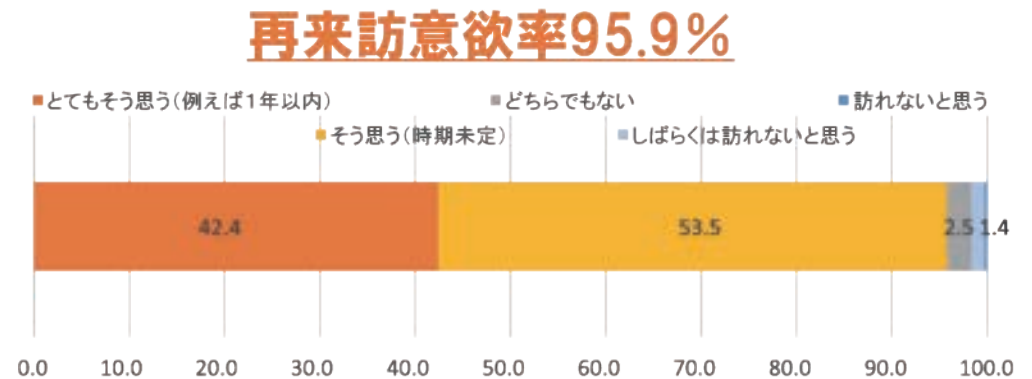
■雲仙市の旅ナカ満足度



■雲仙市への交通手段（複数回答）



■雲仙市への再来訪意欲（「とてもそう思う」・「そう思う」の合計）



※本調査は令和4年6月より開始したため今回の集計結果は参考値としてご覧ください(毎月更新予定)。今年度全体で1000サンプルを取得予定で最終的に調査結果をとりまとめます。

■強い層

来訪者層	利用の特徴 / 留意点・注意点	情報収集について	対応するプログラム	課題・展望
中高年 / 老年層 夫婦旅行	<ul style="list-style-type: none"> ●関東・近畿・福岡からの来訪が多い ●40代以上が7割（雲仙が比較的強い層） ●温泉を楽しみに来訪 7割 ●夫婦二人の旅行 4割 	<p>従来通り新聞やTVのメディアは非常に強く刺さってきているが、WEBメディアにも傾倒している。</p> <p>特にYoutubeやFacebook（男性）Instagram（女性）はユーザー数も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙地獄ガイド ●雲仙温泉 ●雲仙仁田峠プレミアムナイト ●ONSEN ガストロノミー ●ノルディックウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ●食やお土産の消費につながる層だが雲仙にはそのコンテンツが現状不足している ●中高年が温泉を楽しめるコンテンツの造成が必要
家族旅行	<p>家族旅行 3割5分</p>	<p>年代によって訴求方法が異なる（親の世代や子育て世代、家族構成により情報収集方法が異なる）。</p> <p>ファミリー向けメディアよりも母親へのリーチに重きを置くべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●E-bike ●花ぼうろ ●雲仙仁田峠プレミアムナイト（夏シーズン） ●シャワークライミング ●キャンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが楽しめるプログラムが不足している ●キャンプ場での体験コンテンツを増やしていきたい ●地獄を子供が楽しめる仕掛けを考えていきたい

■弱いけど、狙いたい層1

来訪者層	利用の特徴 / 留意点・注意点	情報収集について	対応するプログラム	課題・展望
20代女性 (2名～4名の女子旅)	<ul style="list-style-type: none"> ●写真やビジュアルに興味が高い ●おしゃれなものに敏感 	<p>SNSを中心とした情報収集にシフトした世代。20代前半は特に顕著。 (①Twitter②Instagram) コンテンツに対して非常にビジュアルを意識した世代になるため、PRの際にも最も重要視すべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙仁田峠プレミアムナイト(春シーズン) ●湯にも地獄の物語 ●テントサウナ ●雲の上のピクニック ●花ぼうろ 	<ul style="list-style-type: none"> ●食やお土産のコンテンツ不足 ●撮影スポットが現状ない
30代女性 (2～3名)	<ul style="list-style-type: none"> ●20代と比較して趣味嗜好がはっきりとしてくる人たちが増えてくる ●金額より体験に価値を置く人が増えてくる 	<p>情報収集の手法はSNSだが、属性により活用するSNSの種類が異なる。 ビジネスシーン=Facebook/プライベート=Instagramが主といわれている。趣味嗜好も個人によって大きく変わってくるため、ターゲティングはより細かくしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙地獄ガイド ●キャンプ ●登山ガイド ●湯にも地獄の物語 ●雲仙仁田峠プレミアムナイト ●ココタッチ ●UNZEN Sankaku マルシェ ●ヨガ ●ONSEN ガストロノミー ●テントサウナ 	<ul style="list-style-type: none"> ●価格帯が高く長期滞在が難しい / コミュニケーションを重視したプログラムが少ない ●自分を見つめなおしたり自然に没入できるような少し高尚な体験がニーズが出てくるのでは
リピーター・長期滞在者	<p>ワーケーション利用者 →連泊が出来る価格帯の宿泊施設と近隣に仕事ができる環境が必要。あくまでもワークが旅の目的となっているため日中のコンテンツより早朝や夜のコンテンツが好まれる。</p>	<p>フリーランスやクリエイティブのワーケーション関係者は横のつながりが強く情報発信をそのコミュニティへの投げ込みが強い。 対企業に対してはワーケーションを福利厚生として扱うかなど社の規定も関与してくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地獄ガイド ●ココタッチ ●E-bike ●つまみ食いツアー ●ノルディックウォーク ●ちゃんぼん講座 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光や自然に短時間、もしくは早朝 / 夕方以降で体験できるコンテンツが必要 ●人材育成につながるようなコンテンツの整理も必要 ●ワーケーションは企業向けにアプローチしていく ●自炊できる宿泊先・スーパー / コンビニが少ない

■弱いけど、狙いたい層 2

来訪者層	利用の特徴 / 留意点・注意点	情報収集について	対応するプログラム	課題・展望
東アジア・東南アジアの富裕層	約 1.4 万人で全体の約 5% (H31) / 韓国・香港・中国の順が多い (R1)。国でひとくくりするのではなく。その国の中の細かい属性によって体験したいものや旅の要望は変化。	やまごころ調査結果より参照 ■韓国 1位 Facebook (4.4%) 2位 YouTube 3位 Instagram ■香港 1位 Facebook (5.6%) 2位 YouTube 3位 Instagram ■中国 中国独自の SNS が強かったが FB や Youtube などは上位を占めている 1位 Facebook (2.3%) 2位 Youtube 3位 Weibo 4位 Instagram 5位 WeChat ■台湾 1位 Facebook (6.1%) 2位 Youtube 3位 Instagram ■タイ 1位 Facebook (6.2%) 2位 Youtube 3位 Instagram	まずは、言語が必要でないプログラムを中心に展開。 ①ココタッチ ②雲仙プレミアムナイト ③ビードロ体験 ④雲仙焼 ⑤エコタツ (①②は今後インバウンド用にバージョンアップしていく予定)	インバウンド対応 (ガイド / 標識) が不足している
欧米豪の 20 ~ 40 代等	約 1.4 万人で全体の約 5% (H31) / アメリカ・フランスからが多い (R1)。長期宿泊者が多く全日程の予定を全て決定してきている方は少ない。	■アメリカ 1位 Youtube (6.0%) 2位 Instagram 3位 Facebook ■フランス 1位 Youtube 日本の情報発信メディア (Youtube チャンネルや WEB サイト、個人ブログ) でも情報を収集している	登山ガイド 上記以外は東南アジアと同様	インバウンド対応 (ガイド / 標識) が不足している 旅ナカの情報発信や予約関係の対応が必要

■その他の層

来訪者層	利用の特徴 / 留意点・注意点	対応するプログラム	課題・展望
登山者	山が目的の為、温泉街を素通りの傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●雲登山ガイド ●お山の情報館 ●雲仙温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ●登山ガイドが少ない / 自家用車がないとアクセスが難しい ●登山者が温泉街に寄りたくなる仕組みや仕掛けが必要
県内 / マイクロツーリズム	雲仙市全体で 194 万人が来訪 (H31)。大学生や若い女性のマイクロツーリズム利用客、若い世代のカップル 長崎市内、熊本、佐賀、福岡	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙地獄ガイド ●ガストロノミーウォーキング ●ONSEN マルシェ ●テントサウナ ●エコタツ ●雲仙仁田峠プレミアムナイト 	<ul style="list-style-type: none"> ●多くは小浜温泉への訪問 ●小浜温泉との連携強化が重要 ●雲仙温泉の魅力発信 ●季節で楽しみが変わるプログラムなどはリピーターにつながる
修学旅行	修学旅行は九州・関東・関西からの来訪が多い。 九州=小学校、関西=中学校、関東=高校が多い。 現状は通過点になってしまっており、宿泊のみの利用に偏っている。	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙地獄ガイド ●ジオパークガイド 	<ul style="list-style-type: none"> ●団体参加が可能なプログラムが少ない ●探究プログラムへのニーズが多く、早急に作っていきたいと考えている
企業向け (インセンティブ旅行)	チームビルディングよりもライトなアイスブレイク的な体験がトレンド。	<ul style="list-style-type: none"> ●天幕レストラン ●その他対応コンテンツ制作中 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成につながるようなコンテンツを整理していきたい ●雲仙の観光としてはワーケーションも企業向けにアプローチしていく

■雲仙地域における既存の代表的なインタープリテーション・メディア、プログラム

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
1 ガイドプログラム	1-1 雲仙地獄ガイド	自然公園財団 1,000 円～ 通年 60 分 /120 分 /240 分	0957-73-2543	自然公園財団	
		さるふぁ 600 円～ 通年 45 分～	090-4489-4487	さるふぁ 佐々木	
		TSUDOI 1,500 円～ 通年 60 分～	0957-60-4225	TSUDOI 市来勇人	
	1-2 ジオパークガイド	通年 60 分 800 円 2 名から	0957-62-0655	島原半島観光連盟	修学旅行プログラム対応可
	1-3 登山ガイド	さるふぁ 3,000 円～ 通年	090-4489-4487	さるふぁ 佐々木	1-2 と連携可
		TSUDOI 4,000 円～ 通年	0957-60-4225	TSUDOI 市来勇人	
		松尾カメラ時計展喫茶室 3,300 円～ 通年 180 分 絹笠山登山とお茶会。	090-9599-9890	松尾カメラ時計展 松尾	
		自然公園財団 7,000 円 通年	0957-73-2543	自然公園財団	
	1-4 ノルディック・ウォーキング	通年 7:00～8:00 60 分 1,000 円 地元インストラクターがポールを使ったウォーキング で温泉街を案内する健康増進プログラム。	0957-73-3434	アルクモンウンゼン事務局	

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
2 着地型コンテンツ イベント	2-1 雲仙仁田峠プレミアムナイト	春5月中旬、夏8月週末、秋10月下旬～11月上旬 3,500円 夜の仁田峠へ行くナビゲーター付きバスツアー、ロープウェイの夜間運行も。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-2 天幕レストラン	通年 時期応相談 費用90万～応相談 外国人避暑地時代を思い起こさせるレトロな雰囲気 で島原半島のグルメを堪能。	0957-73-3434	雲仙観光局	富裕層向け 完全オーダーメイド
	2-3 湯にも地獄の物語	3～11月毎月第2第4土曜 3,000円 夜の地獄案内（語り部や三味線奏者による演出）	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-4 UNZEN Sankaku マルシェ	年数回 雲仙の自然を舞台にした、島原半島グルメや雑貨、アクティビティの出店イベント。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-5 ONSEN ガストロノミーウォーキング	11月中旬 3,500円（額は今後5,000円程度を検討中） 雲仙中心のグルメ、約8kmのウォーキング。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-6 E-Bike	雲仙観光局、雲仙福田屋、H.U.B.雲仙、雲仙よか湯 通年 1,500円/H、3,000円/3H、5,000円/5H 電動アシスト付き自転車レンタル	0957-73-3434 0957-73-2151 0957-73-3373 0957-73-2003	雲仙観光局 雲仙福田屋 H.U.B.雲仙 雲仙よか湯	レンタル場所 雲仙温泉観光案内所、雲仙ゴルフ場、雲仙BASE 雲仙福田屋 H.U.B.雲仙 雲仙よか湯

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
2 着地型コンテンツ イベント	2-7 雲仙焼陶芸体験	通年 30分 3,000円～（送料別） 火山灰を使う陶芸体験 ギャラリー併設	0957-73-2688	雲仙焼	
	2-8 雲仙灯りの花ぼうろ	2月上旬～2月下旬 霧氷をイメージしたイルミネーションと花火。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-9 なべブタっ球	不定期開催 郷土料理「具雑煮」のなべブタを使った ご当地温泉卓球。	0957-73-3434	雲仙観光局	他イベントでの開催あり
	2-10 雲仙エコタツ	冬期（12月～3月） 旧八万地獄での地熱体験。	0957-73-3434	雲仙観光局	オーダーメイド型イベント
	2-11 地熱体験「ココタッチ」	通年 2,000円 旧八万地獄での地熱体験と星空観察。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-12 ガラス細工作り体験	通年 フュージング 1,700円 サンドブラスト 2,000円 フォトフレーム 2,300円 万華鏡 1,800円	0957-73-3133	雲仙ビードロ美術館	江戸期の吹きガラスや19世紀のボヘミアンガラスなどのアンティークガラスを展示している。
	2-13 雲の上のピクニック	通年 自然豊かな雲仙で、写真映えるおしゃれなピクニック。ピクニックグッズレンタル料 2,000円。その他お弁当類あり。	0957-73-3434	雲仙観光局	
	2-14 テントサウナ	通年 120分 4,500円～（大人5名まで）	0957-37-6556	森のしらべ	
	2-15 バギー体験	通年 90分 6,000円～ ガイド付き森林バギー体験 要普通免許	0957-37-6556	森のしらべ	

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
2 着地型コンテンツ イベント	2-16 シャワークライミング	4/末～10/15 180分 7,400円～ 大人2名から 渓谷を下流から上流に向かって探検& 登りきるアクティビティ。 ※ウェットスーツ、ヘルメット等各装備類レンタル可	0957-37-6556	森のしらべ	
	2-17 UNZEN BASE YOGA	通年（不定期開催） 1,000円 雲仙 BASE 交流コンシェルジュによるヨガ教室	https://z-p15.www.instagram.com/unzen_base/ 	雲仙 BASE	
	2-18 雲仙白雲の池キャンプ	4月上旬～12月上旬 火水定休（GW 春夏休み期間は無休） 区画 1,000円～ 宿泊料 1,000円	0957-73-6464	白雲の池キャンプ 場管理棟	
	2-19 雲仙 BASE 料理道場	通年 不定期開催 雲仙福田屋料理長やちゃんぼん番長など招いて開催する料理教室。	https://z-p15.www.instagram.com/unzen_base/ 	雲仙 BASE	
	2-20 ファミリーコンサート	毎月1回開催 ダンスインストラクター macchi 先生による老若男女リズムに合わせて体を動かす楽しいコンサート。			
	2-20 雲仙温泉つまみ食いウォーキング	通年（1日2回開催） 10時・15時出発 約90分 3,000円	0957-73-3434	雲仙観光局	コロナの影響で現在受付中止中
	2-21 湯せんぺい手焼き体験	不定休 要予約 料金改定中	0957-73-2155	遠江屋本舗	コロナの影響で現在受付中止中

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
3 展示施設 案内施設	3-1 雲仙お山の情報館	毎週木曜日休館（夏休みや祝日除く） 雲仙地域の自然情報を中心に歴史や火山・温泉をテーマとした展示。	0957-73-3636	自然公園財団雲仙支部	展示リニューアルが予定されており、IP 全体計画の反映が期待される。
	3-2 雲仙お山の情報館別館	年中無休 9：00～17：00 本館と同じく、歴史や温泉、火山をテーマとした展示。特に、避暑地時代などの古写真や古絵葉書に特化した展示物は必見。	0957-73-3636	自然公園財団雲仙支部	展示リニューアルが予定されており、IP 全体計画の反映が期待される。
	3-3 雲仙諏訪の池ビジターセンター	毎週水曜日休館（祝日除く）9：00～17：00 里山環境の自然環境や地形、動植物、野鳥などについての展示。九州最大級の屈折式大型天体望遠鏡を設置し星空観察が可能。草木染めや、藍染めの体験などの他、野鳥観察やウォーキング等様々な体験が可能。	0957-76-5010	雲仙観光局 雲仙諏訪の池ビジターセンター	
	3-4 平成新山ネイチャーセンター	毎週火曜日定休（祝日除く）9：00～17：00 普賢岳の噴火災害によって荒廃した垂木台地の自然環境の再生状況を観察できる学習施設で、火山の歴史や観測システム、動植物の紹介。	0957-63-6752	平成新山ネイチャーセンター	
	3-5 雲仙温泉観光案内所	年中無休	0957-73-3434	雲仙観光局	
	3-6 雲仙ビードロ美術館	水曜定休 入館料おとな 700 円 アンティークガラス、外国人避暑地時代の調度品等の展示。	0957-73-3133	雲仙ビードロ美術館	
	3-7 小浜温泉観光案内所	年中無休	0957-74-2672	雲仙観光局	

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
4 ガイドマップ (地図)	4-1 うんぜんわ 	雲仙市のワーケーションの取組み、雲仙BASEについて記載してある	0957-38-3111	雲仙市	ワーケーション利用者向けのパンフレット
	4-2 雲仙地獄めぐり 	地獄の由来や歴史等が記載してある	0957-73-3636	自然公園財団	やや中高年向けのメディア
	4-3 雲仙もち味マップ 	オーナーにフォーカスを当てた雲仙温泉街の飲食店紹介のツール	0957-60-4225	雲仙飲食店組合	万人向けメディア
	4-4 Find UNZEN 	雲仙と小浜の温泉街マップ 雲仙温泉街と小浜温泉街の位置関係を1枚に記載している	0957-73-3434	雲仙観光局	若い層向けのメディア
	4-5 島原半島旅びより 	島原半島全体のガイドブック・パンフレット	0957-62-0655	島原半島観光連盟	
	4-6 雲仙市ガイドブック 	雲仙市全域を網羅的に紹介したパンフレット	0957-73-3434	雲仙観光局	まず最初にお客様にとって頂くことが多い

	メディア・プログラム	概要（開催時期・内容・費用等）	問い合わせ先	担当組織・担当者	備考
	4-7 雲仙登山ガイド 	三峰五岳の登山マップ	0957-73-3434	雲仙観光局	登山者用の MAP
5 Web メディア	5-1 雲仙観光局	https://www.unzen.org 	0957-73-3639	雲仙観光局	
	5-2 Find UNZEN	雲仙市観光情報ストック サイト https://find.unzen.org/ 	0957-73-3639	雲仙観光局	
	5-3 雲仙ポータル	インナー向けサイト https://www.unzen-portal.jp 	0957-73-3639	雲仙観光局	
	5-4 雲仙観光局公式ウェブサイト	コーポレートサイト https://unzen-dmo.com/ 	0957-73-3639	雲仙観光局	
	5-5 雲仙お山の情報館	https://unzenvc.com/ 	0957-73-2543	自然公園財団雲仙支部	
	5-6 雲仙諏訪の池ビジターセンター	https://www.unzen-suwanoike.com/ 	0957-70-5010	雲仙観光局 雲仙諏訪の池ビジターセンター	

雲仙をもっと好きになるSTORY

雲仙温泉地区 インタープリテーション全体計画

発行 一般社団法人雲仙観光局
〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙 320
TEL 0957-73-3639

協力 雲仙温泉街のみなさま
公益社団法人日本環境教育フォーラム
一般社団法人日本インタープリテーション協会
株式会社 1
景色デザイン室
雲仙市 観光商工部 観光物産課
環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室
環境省 自然環境局 九州地方環境事務所 雲仙自然保護官事務所

デザイン 株式会社 CCA 高畑奈苗
雲仙観光局 杉浦沙樹

イラスト 雲仙観光局 堀口治香

本冊子は、「観光庁 令和 4 年度 サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」で作成しました。

